

## I. 総括研究報告

長寿医療研究開発費 平成26年度 総括研究報告（総合報告及び年度報告）

高齢者の食の自立を守るための口腔と栄養に関する長期介入研究（24-21）

主任研究者 渡邊 裕 国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部（室 長）

### 研究要旨

#### 3年間全体について

本研究では介護予防において、効果的な口腔機能向上と栄養改善のサービスプログラムを開発し普及させること、また我々がこれまで認知症高齢者の食支援に関する研究をもとに開発してきた、「高齢者の自立摂食を維持するためのマニュアル」の有用性を検証し、さらに改善、普及させることを目的に以下の2つの調査研究事業を実施した。3年間の研究期間中、1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究では、通所介護利用者130名を無作為に3群に割り付け、口腔機能向上と栄養改善およびその複合サービスプログラムによる18ヵ月間の長期介入を実施し、それぞれのサービスの効果を比較検討した。2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究では、「高齢者の自立摂食を維持するためのマニュアル」を用いて、24ヵ月間の長期介入を行い、その有用性を検証した。

#### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

本研究の目的は介護予防において、効果的な口腔機能向上と栄養改善のサービスプログラムを開発し普及させることとした。

愛知県の同一福祉法人が運営する4つの通所事業所の利用者とその家族に対して本調査に関する説明を行い、同意が得られた利用者130名（重度要介護者（要介護4・5）を除く）を対象に、介護予防の選択的サービスである口腔機能向上と栄養改善の両サービス単独で提供した場合の効果と、それらを複合的に提供した場合の効果は無作為化比較試験にて検証した。

介入効果の検証は介入前、介入後3ヵ月、9ヵ月、21ヵ月で行ったが、介入後3ヵ月間は試験的介入を行ったことから、実際の効果検証は、その後の18ヵ月間で行った。18ヵ月間の介入期間中、介入前、介入後6ヵ月、介入後18ヵ月時に詳細な調査を実施し、各群別に比較検討を行った。結果、口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に提供した複合群では、口腔に関する項目では、口腔衛生状態・咬筋触診・側頭筋触診・頬膨らまし・RSSTの嚥下回数・オーラルディアドキネシスでは/Pa//Ta//Ka/のすべて向上していた。

特に口腔衛生状態や咬筋触診においては口腔機能向上と栄養改善のどちらかのサービスの提供した単独群と比較して改善効果が高く、オーラルディアドコキネシスの/Pa//Ta/においては有意差を認めた。これらのことから歯科衛生士の介入により口腔衛生への意識や技術が向上し、また管理栄養士が「口から食べること」を支援したことにより、口腔の健康への意識が相乗的に高まったと考える。

口腔以外の項目に関して、複合群では要介護認定や Barthel index において有意ではなかったが改善傾向がみられた。精神的健康状態を示す WHO-5 は低下傾向がみられたものの、Vitality index（意欲の指標）や健康関連 QOL を示す SF-8<sup>TM</sup>においては若干の改善がみられた。栄養状態が良好なものほど SF-8<sup>TM</sup>の社会生活機能や精神的サマリースコアが高いことや、口腔衛生や咀嚼機能を始めとした摂食機能が高齢者の口腔および全身の QOL に関連するとの報告もあることから、複合的にサービスを提供することにより、栄養状態の改善と口腔機能向上を通じて QOL の維持向上とともに、健康維持や社会参加といった意欲を相乗的に引き出し、これらが高い介護予防効果に繋がった可能性が示唆された。

介護事業所の体制面においては、複合的にサービスを提供した場合は、歯科衛生士と管理栄養士がそれぞれの専門的な立場から関わり、互いに情報を共有し、指導内容の調整を行うことで、利用者の抱える問題の解決に向けた多面的なアプローチが可能となることが示唆された。さらに、通所介護事業所の利用者に専門職が定期的に介入することで、事業所の職員が歯科衛生士から口腔ケアや口腔体操などのアドバイスを得たり、管理栄養士から利用者の栄養面の情報が提供されたりといった利点があった。また、口腔や栄養に関する利用者の行動の変化などから効果を実感するなど、事業所の職員についても良い影響がみられている。

サービス提供のためのツールについては平成 25 年度に作成した口腔と栄養の複合手帳を改訂し、運動器の機能向上も含めた健康長寿塾マニュアルを完成させた。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

本研究の目的は我々が独自に開発した「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の有用性を検証するとともに、さらにマニュアルを改善し普及させることである。

平成 24 年度は 5 つの特別養護老人ホームにおいて、マニュアルの周知、解説を目的とした施設職員全員に対する研修会を実施し、マニュアルに基づいて、その後 3 ヶ月間 423 名の入所者の食事や口腔・栄養に関する支援を行ない、マニュアルの効果を検証した。

平成 25 年度は前年度の結果を踏まえ、マニュアルの改訂を行い、これに関する研修会を実施し、改定したマニュアルに基づいて、同施設入所者の食事や口腔・栄養に関する支援を 1 年間実施し、入所者への効果を検証した。また対照として 1 つの特別養護老人ホーム（入所者 53 名）を加え長期的効果を比較検討した。

平成 26 年度は前年度調査をさらに継続し、平成 26 年 9 月に介入開始 2 年後の調査を実施し、「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の長期効果について検討した。

2年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は226名（男性42、女性184名、平均年齢82.5±8.3歳）であった。226名中179名（79.2%）に食支援が行われた。基本調査項目では、Barthel Index、Vitality Index、MNA-SF、BMIにおいて一定の改善は見られたが有意な差は見られなかった。食事行動に関する項目では、介入の有無で介入前後の差は認められなかった、一方食事時の意識レベルが低い者、食事を自分の手で口に入れられる者、利き手をアシストして食事をすくう誘導をすると開始できる者、利き手をアシストして口元まで持っていくと開始できる者、ゼリーのパックを開ける等がわからない者、手でつまんで食べる者、一つの食器からのみ食べ続ける者、手前の食器からのみ食べ続ける者、日や時間によって食べ方の乱れが異なる者は、認知症の進行が示唆された。

認知症は進行性の疾患であるため、進行に合わせ適宜アセスメントを行い、介入の必要性や介入内容を検討していく必要があると考えられた。また、長期介入の場合には施設職員の移動や入れ替わり、担当の変更等があるため、職員により評価や支援にバラつきがでることも考えられる。施設職員同士での研修や支援方法の情報共有についての検討も今後の課題と考えられた。

本研究結果の一部は第113回介護給付費分科会（H26.11.6）資料に採用され、介護保健施設等入所者の口腔・栄養管理の経口維持加算等の見直しが行われた。

平成26年度について

#### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

平成26年度は介入調査対象の通所事業所利用者に対する18ヵ月間の介入効果について検討を行った。口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に提供した複合群では、口腔に関する項目である口腔衛生状態・食渣・咬筋触診・RSSTの嚥下に要する時間・MWST・ODKでは/Pa//Ka/の発音について複合群が向上していた。特に口腔衛生状態や咬筋触診においては他の群に比較して改善した割合が高かったことや、ODK/Pa/においては有意差があったことから、歯科衛生士の介入により口腔衛生への意識や技術が向上したと考えられる。また本複合プログラムでは口腔衛生等の技術指導にとどまらず、管理栄養士が「口から食べること」「適切な栄養の考え方」の情報提供により経口摂取や栄養の重要性に関する理解と意欲を支援したことにより、口腔の健康への意識が相乗的に高まったと考える。

身体の機能面の項目では、要介護認定が有意に改善し、Barthel indexでも改善傾向がみられた。また精神機能面では、複合群で口腔や栄養の単独プログラムよりも認知症重症度が維持傾向を示した。さらに精神的健康状態を示すWHO-5は低下傾向がみられたものの、他のQOLに関する項目であるVitality Index（意欲の指標）や健康関連QOLを示すSF-8<sup>TM</sup>において若干の改善がみられた。またSF-8<sup>TM</sup>においては、いずれの群でも身体的健康が精神的健康より向上している傾向があったが、統計学的な有意性はないにしても、複合群は口腔や栄養の単独プログラム群よりも項目間のバランスが取れているという結果であった。

以上の結果から、複合プログラムは栄養状態の改善と口腔機能向上を通じて QOL の維持向上とともに、健康維持や社会参加といった意欲を相乗的に引き出し、高い介護予防効果が得られる可能性が示唆された。本結果で長期的な介入により効果が得られたことは、情報やトレーニングの量、頻度に効果が影響されることの裏付けとも考えられる。サービスの回数や量を調節する必要がある介護現場において最大限に効果的なサービスを提供するためには、効果的なプログラムが必要であり、要素の組み合わせや習慣化などのバランス、および計画的で継続的な介入が重要であることが示された。また要介護高齢者の精神面の健康は認知症重症度やうつに強く影響するものであり、情報提供や技術指導に加えて精神面での支援も加味したプログラムを開発する必要性が示唆された。今回の結果から複合的なサービスの提供が介護予防の目的である QOL の維持向上に効果がある可能性が示唆されたことは、本研究の特筆すべき結果と考えられる。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

平成 26 年度は平成 25 年からの調査をさらに継続し、平成 26 年 9 月に介入開始 2 年後の詳細な調査を実施し、「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の長期効果について検討した。

2 年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は 226 名（男性 42、女性 184 名、平均年齢  $82.5 \pm 8.3$  歳）であった。

226 名中 179 名（79.2%）に食支援が行われていた。基本調査項目では、Barthel Index、Vitality Index、MNA<sup>®</sup>-SF、BMI において一定の改善は見られたが有意な差は見られなかった。食事行動に関する項目では、介入の有無で介入前後の差は認められなかった、一方食事時の意識レベルが低い者、食事を自分の手で口に入れられる者、利き手をアシストして食事をすくう誘導をすると開始できる者、利き手をアシストして口元まで持っていくと開始できる者、ゼリーのパックを開ける等がわからない者、手でつまんで食べる者、一つの食器からのみ食べ続ける者、手前の食器からのみ食べ続ける者、日や時間によって食べ方の乱れが異なる者は、認知症の進行が示唆された。以上の結果から認知症の進行に合わせ適宜アセスメントを行い介入の必要性や介入内容を検討していく必要があると考えられた。また、長期介入の場合には施設職員の移動や入れ替わりや担当の変更等があるため、職員により評価や支援にバラつきがでることも考えられる。施設職員同士での研修や支援方法の情報共有についての検討も今後の課題と考えられた。

## 主任研究者

渡邊 裕 国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 (室 長)

## 分担研究者

鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター 研究所 (所 長)

平野 浩彦 東京都健康長寿医療センター 研究所 (副部長)

田中 弥生 駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科 (准教授)

枝広あや子 東京都健康長寿医療センター 研究所 (研究員)

## 研究協力者

森下 志穂 国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 (流動研究員)

須磨 紫乃 国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 (研究員) (平成26年度)

高城 大輔 昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門  
(大学院生) (平成26年度)

研究期間 平成24年9月1日～平成27年3月31日

## A. 研究目的

### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

本研究では、介護予防の選択的サービスである口腔機能向上と栄養改善の両サービスとそれらを複合的に提供するサービスの効果を検証し、効果的なサービスプログラムを開発することを目的とした。効果検証は通所介護事業所において口腔機能向上のみのサービスを行う利用者、栄養改善のみのサービスを行う利用者、口腔機能向上および栄養改善のサービスを複合的に行う利用者の3つの介入群に分け無作為比較試験を行った。平成24年11月から平成26年10月までの2年間(実質介入期間は21ヵ月)の長期介入効果について検証した。

### 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

高齢者の生命予後やQOL、尊厳に大きく影響する経口摂取を維持することは、高齢者医療・福祉の重要課題となっている。また、高齢者のエネルギーと蛋白質の摂取不足は二次性サルコペニアを引き起こし、四肢体幹の筋肉、嚥下筋、呼吸筋のサルコペニアを進行させる。これにより寝たきり、嚥下障害、呼吸障害のリスクが高まり、疾患を繰り返すことでさらにサルコペニアは進行するという悪循環に陥る。この悪循環を断ち切るには体幹の機能訓練だけでなく、適切な栄養摂取とそれを支える口腔機能の維持向上が重要である。認知症高齢者や要介護高齢者などでは、自立摂食能力が残されているにも関わらずその評価や支援が十分でないために、食事が全介助となったり食形態が機能にあってい

ないなどで、食事への楽しみや意欲を失うことも考えられる。こうした認知症高齢者や要介護高齢者の食思不振は、さらに低栄養や嚥下機能の低下を生じさせる。高齢者数が急増しているわが国の現状では、経口摂取困難になっている高齢者も増加の一途をたどっていると考えられる。そこで本研究では、我々がこれまで認知症高齢者の食支援に関する研究を基に開発してきた、「高齢者の自立摂食を維持するためのマニュアル」の有用性を検証し、さらに改善、普及させることを目的に平成24年11月から平成26年10月に特別養護老人ホームの入所者を対象に、「高齢者の自立摂食を維持するためのマニュアル」を用いた2年間の長期介入調査を実施し、マニュアルの効果について検討した。

## B. 研究方法

### 3年間全体について

#### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

調査協力の了解を得られた通所介護事業所4施設において、口腔機能向上指導を行う歯科衛生士と栄養指導を行う管理栄養士を配置し、口腔機能向上と栄養改善の複合プログラム、栄養改善プログラム（単独）、口腔機能の向上プログラム（単独）を18ヵ月間実施した。その介入による各プログラム参加者の身体機能・QOL等に関する効果が無作為化比較試験（RCT）により比較検証した。

事業の実施場所の確保：実施場所は介護予防通所介護を行っている通所介護サービス事業所とした。また、複合プログラムの内容も踏まえ、管理栄養士、歯科衛生士等が担当できる体制を確保した。

各プログラムの参加者は、本研究事務局において、調査協力に同意が得られた利用者130名を各事業所内それぞれにおいて3群に無作為に割り付けるものとし、各プログラム約43人とした。

プログラムの開始前に、初回の事前評価を実施した。参加者個票を使用し、各評価項目について調査票に記載した。調査票の記載は、事業所のスタッフが行った。調査項目は口腔機能の状況、GO-HAI、口腔と栄養に関する行動変容のステージ、食事摂取量、栄養改善の達成度、食事に対する意向、SF-8<sup>m</sup>、WHO-5、介護予防の基本チェックリスト等とした。

体調不良、認知症重度、入院等で事前の調査をすべて完遂できなかった31名を除いた99名を事前調査の結果を元に、口腔機能向上サービスを月2回実施する「口腔群」と栄養改善サービスを月2回実施する「栄養群」、両サービスを月1回ずつ実施する「複合群」の3群に無作為に割り付けた。

事業所に歯科衛生士、管理栄養士を派遣し、口腔機能向上および、栄養改善に関するサービスを実施した。3ヵ月間の試験介入を実施し、サービスの実施期間中に介入後調査2回を実施し18ヵ月間とした。

3ヵ月間の試験介入後、9ヵ月後（6ヵ月間の本プログラム終了後）、21ヵ月後（18ヵ

月間の本プログラム終了後)に、事前調査と同様の事後評価を実施した。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

介入調査は、同一福祉法人が運営する5つの特別養護老人ホームの入所者を対象とした。認知症と診断されているか要介護状態にある高齢者で、本人および家族・後見人に調査に関する説明を行い同意が得られた利用者423名を対象とした。事前に基礎情報(身長、体重、既往歴、ADL、Barthel Index、Vitality Index、認知症重症度、神経学的所見、等)と食事に関する調査(日常介助の受容状況、摂食力評価、食事時間、食事量、食事の自立状況、食行動観察、等)を行なった。次に5施設の全施設職員に対して「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の解説と利用方法に関する研修会を計6回開催し、マニュアルに基づいた食支援を2年間実施した。その間3ヵ月後、15ヵ月後、24ヵ月後にそれぞれ介入後調査を行い、マニュアルに基づいた食支援の効果とマニュアルの問題点について検証した。

年度ごと前年度の結果を踏まえ、マニュアルの改訂を行い、これに関する研修会を実施し、引き続き改定したマニュアルに基づいて、同施設入所者の食事や口腔・栄養に関する支援を実施し入所者への効果を検証した。また平成25年度は対照として別の1つの特別養護老人ホーム(入所者53名)を加え比較検討した。また、マニュアルの効果に影響することが明かになった食欲の評価法の確立と食欲減退への対策について検討を行った。

平成26年9月に介入開始2年後の最終調査を実施し、「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の長期効果について検討した。

### 平成26年度について

#### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

前年度介入調査をさらに継続し、平成26年9月に介入開始18ヵ月後の調査を実施した。18ヵ月間の介入調査期間を通して調査に参加した利用者は93名(口腔群26名、栄養群21名、複合群26名)であった。調査項目は基礎情報(身長、体重、既往歴、ADL、Barthel Index、Vitality Index、認知症重症度、神経学的所見、等)と口腔機能の状況、GO-HAI、口腔と栄養に関する行動変容のステージ、食事摂取量、栄養改善の達成度、食事に対する意向、SF-8™、WHO-5、介護予防の基本チェックリスト等とした。

#### 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

前年度介入調査をさらに継続し、平成26年9月に介入開始2年後の調査を実施し、「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の長期効果について検討した。

2年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は226名(男性42、女性184名、平均年齢82.5±8.3歳)であった。調査内容は、基礎情報(身長、体重、既往歴、ADL、Barthel

Index、Vitality Index、認知症重症度、神経学的所見、等）と食事に関する調査（日常介助の受容状況、摂食力評価、食事時間、食事量、食事の自立状況、食行動観察、等）とした。

（倫理面への配慮）

3年間全体について

本調査研究事業の実施に際しては、独立行政法人国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会の審査、承認（受付番号 No. 605）を受け実施した。研究の実施においては、事前に対象者または家族に対して本調査の目的ならびに内容に関する説明を行い、調査に同意の得られた者を対象とした。すべてのデータは匿名化した上で取り扱い、個人を特定できない条件で行った。

## C. 研究結果

3年間全体について

### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

平成24年度の3ヶ月間の試験的介入調査の結果、口腔機能に関する評価項目、食品摂取の多様性、低栄養リスク、SF8に関して口腔機能向上と栄養改善の両サービスをそれぞれ単独で提供した群と、それらを複合的に提供した群の3群とも維持または改善という結果が得られた。統計学的に複合群が有意に改善した評価項目は認めなかったが、摂取可能食品や口腔のQOLについては複合群が口腔や栄養の単独群に比較して改善率が高かった。以上の結果から高齢者の豊かな食生活を支援するためには、口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に実施するプログラムが有効である可能性が示唆された。

平成25年度は新たに5つの通所介護事業所の協力を得て、6ヶ月間の介入および非介入群の対象者を追加し長期的な効果を検証した。口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に提供した複合群では、口腔に関する項目の口腔衛生状態・咬筋触診・側頭筋触診・頬膨らまし・RSSTの嚥下回数・オーラルディアドコキネシスでは/Pa//Ta//Ka/のすべて向上していた。特に口腔衛生状態や咬筋触診においては口腔機能向上と栄養改善のどちらかのサービスのみを提供した単独群と比較して改善効果が高く、オーラルディアドコキネシスの/Pa//Ta/においては有意差を認めた。これらのことから歯科衛生士の介入により口腔衛生への意識や技術が向上し、また管理栄養士が「口から食べること」を支援したことにより、口腔の健康への意識が相乗的に高まったと考えられた。

口腔以外の項目に関して、複合群では要介護認定や Barthel index において有意ではなかったが効果が認められた。精神的健康状態を示す WHO-5 は低下傾向がみられたものの、Vitality index（意欲の指標）や健康関連 QOL を示す SF-8<sup>TM</sup>においては若干の改善がみられた。

平成 26 年度は 18 ヶ月間の介入調査の結果を検討した。口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に提供した複合群では、口腔に関する項目である口腔衛生状態・食渣・咬筋触診・RSST の嚥下に要する時間・MWST・ODK では/Pa//Ka/の発音について複合群が向上していた。特に口腔衛生状態や咬筋触診においては他の群に比較して改善した割合が高かったことや、ODK/Pa/においては有意な差が認められた。身体の機能面の項目では、要介護認定で有意に改善し、Barthel index でも改善傾向がみられた。また精神機能面では、複合群で口腔や栄養の単独プログラムよりも認知症重症度の維持傾向を示した。さらに精神的健康状態を示す WHO-5 は低下傾向がみられたものの、他の QOL に関する項目である VI（意欲の指標）や健康関連 QOL を示す SF-8<sup>TM</sup>において若干の改善がみられた。また SF-8<sup>TM</sup>においては、いずれの群でも身体的健康が精神的健康より向上している傾向があったが、統計学的な優位性はないにしても、複合群は口腔や栄養の単独プログラム群よりも項目間のバランスが取れているという結果が得られた。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

平成 24 年度は 3 ヶ月間の介入調査の結果、調査期間中入所者の 51.5%にマニュアルに基づいた食支援が行われ、食行動に問題のある者が多いことが分かった。また施設職員による支援を受けた入所者の 89.0%に食行動に関する改善が認められた。施設職員に対する研修会のみでの介入で、アセスメントと支援は施設職員が独自に行ったことを考慮すると、その有用性高く、普及への期待は極めて大きいと考えられた。栄養と食事に関する評価については、短期間の調査であったため食事時間が短縮した以外、有意な改善はみられなかった。

栄養と食事に関する評価の悪化に関連する因子を検討したところ、食欲の減退が強く影響することが示唆された。このことからマニュアルの活用においては、対象者の食欲の状態を十分に考慮し、食支援の実施やその内容を検討する必要があると考えられた。

平成 25 年度は前年度の結果を踏まえ、マニュアルの改訂を行い、これに関する研修会を実施した。引き続き改定したマニュアルに基づいて、同施設入所者の食事や口腔・栄養に関する支援を 1 年間実施し入所者への効果を検証した。また対照として 1 つの特別養護老人ホーム（入所者 53 名）を加え比較検討した。また、マニュアルの効果に影響することが明らかになった食欲の評価法の確立と食欲減退への対策について検討を行った。結果、介入開始後 1 年後の調査では、対象者 288 名中 127 名（44.1%）に食支援が行われ、そのうち 55 名（43.3%）に自立摂食に関する改善が認められた。基本調査項目では、Barthel Index において介入により有意な改善がみられた。食行動に関する項目では、介入群において食事開始時の言語誘導や視覚的指示、動作のきっかけを作る支援において一定の効果がみられたが、食事開始に支援が必要となった者、食事の自立ができない者は増加していた。食事介助群のみでの前後比較では、摂食力評価、食事時間の変化では介入非介入両群とも低下していたが、非介入群での低下率が高い結果となった。また、平均の摂食量に関しては、

介入群では改善、非介入群では悪化する傾向が認められた。食欲の評価法としてシニア向け食欲調査票（Council on Nutrition Appetite Questionnaire：CNAQ）の日本語版を作成し、その検証を行った。結果、CNAQにより食欲低下ありと判定された者は3ヵ月間の体重減少者の割合が有意に高いという結果が得られ、日本語版CNAQの妥当性を示す根拠が得られた。

平成26年9月に介入開始後2年後の調査を実施した。基本調査項目では、Barthel Index、Vitality Index、MNA-SF、BMIにおいて一定の改善は見られたが有意な差は見られなかった。食事行動に関する項目では、介入の有無で介入前後の差は認められなかった。一方食事時の意識レベルが低い者、食事を自分の手で口に入れられる者、利き手をアシストして食事をすくう誘導をすると開始できる者、利き手をアシストして口元まで持っていくと開始できる者、ゼリーのパックを開ける等がわからない者、手でつまんで食べる者、一つの食器からのみ食べ続ける者、手前の食器からのみ食べ続ける者、日や時間によって食べ方の乱れが異なる者は、認知症の進行が示唆された。

平成26年度について

#### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

平成26年度は18ヵ月間の介入調査の効果を検討した。口腔機能向上と栄養改善の両サービスを複合的に提供した複合群では、口腔に関する項目である口腔衛生状態・食渣・咬筋触診・RSSTの嚥下に要する時間・MWST・ODKでは/Pa//Ka/の発音について複合群が向上していた。特に口腔衛生状態や咬筋触診においては他の群に比較して改善した割合が高かったことや、ODK/Pa/においては有意な差があったことから、歯科衛生士の介入により口腔衛生への意識や技術が向上したと考えられる。また本複合プログラムでは口腔衛生等の技術指導にとどまらず、管理栄養士が「口から食べること」「適切な栄養の考え方」の情報提供により理解と意欲を支援したことにより、口腔の健康への意識が相乗的に高まったと考えられた。

身体の機能面の項目では、要介護認定で有意に改善し、Barthel indexでも改善傾向がみられた。また精神機能面では、複合群で口腔や栄養の単独プログラムよりも認知症重症度の維持傾向を示した。さらに精神的健康状態を示すWHO-5は低下傾向がみられたものの、他のQOLに関する項目であるVI（意欲の指標）や健康関連QOLを示すSF-8<sup>TM</sup>において若干の改善がみられた。またSF-8<sup>TM</sup>においては、いずれの群でも身体的健康が精神的健康より向上している傾向があったが、統計学的な優位性はないにしても、複合群は口腔や栄養の単独プログラム群よりも項目間のバランスが取れているという結果が得られた。

#### 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

2年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は226名を対象に、介入後2年後

調査を実施した。結果、基本調査項目では、Barthel Index、Vitality Index、MNA-SF、BMI において一定の改善は見られたが有意な差は見られなかった。食事行動に関する項目では、介入の有無で介入前後の差は認められなかった一方で、食事時の意識レベルが低い者、食事を自分の手で口に入れられる者、利き手をアシストして食事をすくう誘導をすると開始できる者、利き手をアシストして口元まで持っていくと開始できる者、ゼリーのパックを開ける等がわからない者、手でつまんで食べる者、一つの食器からのみ食べ続ける者、手前の食器からのみ食べ続ける者、日や時間によって食べ方の乱れが異なる者は、認知症の進行が示唆された。

#### D. 考察と結論

3年間全体について

##### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

口腔以外の項目に関して、複合群では要介護認定や Barthel index において有意ではなかったが改善傾向がみられた。精神的健康状態を示す WHO-5 は低下傾向がみられたものの、Vitality index（意欲の指標）や健康関連 QOL を示す SF-8<sup>TM</sup>においては若干の改善がみられた。栄養状態が良好なものほど SF-8<sup>TM</sup>の社会生活機能や精神的サマリースコアが高いことや、口腔衛生や咀嚼機能を始めとした摂食機能が高齢者の口腔および全身の QOL に関連するとの報告もあることから、複合的にサービスを提供することにより、栄養状態の改善と口腔機能向上を通じて QOL の維持向上とともに、健康維持や社会参加といった意欲を相乗的に引き出し、これらが高い介護予防効果に繋がった可能性が示唆された。

介護事業所の体制面においては、複合的にサービスを提供した場合は、歯科衛生士と管理栄養士がそれぞれの専門的な立場から関わり、互いに情報を共有し、指導内容の調整を行うことで、利用者の抱える問題の解決に向けた多面的なアプローチが可能となることが示唆された。さらに、通所介護事業所の利用者に専門職が定期的に介入することで、事業所の職員が歯科衛生士から口腔ケアや口腔体操などのアドバイスを得たり、管理栄養士から利用者の栄養面の情報が提供されたりといった利点があった。また、口腔や栄養に関する利用者の行動の変化などから効果を実感するなど、事業所の職員についても良い影響がみられている。

介護予防とは、単に要介護状態の発生を防ぐ・遅らせることを目指すものではなく、心身機能の改善や環境調整などを通じて、高齢者一人ひとりが活動的で生きがいのある生活をおくることを目的として行われるもので、生涯にわたり生きがいや自己実現のための取組みを総合的に支援することによって、QOL の向上をも目指すものとされている。今回の結果から複合的なサービスの提供が介護予防の目的である QOL の維持向上に効果がある可能性が示唆されたことは、本研究の特筆すべき結果と考える。

サービス提供のためのツールについては平成 25 年度に作成した口腔と栄養の複合手帳を

改訂し、運動器の機能向上も含めた健康長寿塾マニュアルを完成させた。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

平成 24 年度の結果からは施設職員に対する研修会のみでの介入で、アセスメントと支援は施設職員が独自に行ったことを考慮すると、その有用性高く、普及への期待は極めて大きいと考えられた。栄養と食事に関する評価の悪化に関連する因子については、食欲の減退が強く影響することが示唆され、マニュアルの活用においては、対象者の食欲の状態を十分に考慮し、食支援の実施やその内容を検討する必要があると考えられた。

平成 25 年度はマニュアルの改訂を行い、引き続きマニュアルに基づいて、同施設入所者の食事や口腔・栄養に関する支援を 1 年間実施し入所者への効果を検証した。特にマニュアルの効果に影響することが明かになった食欲の評価法の確立と食欲減退への対策について検討を行った。食行動に関する項目では、介入群において食事開始時の言語誘導や視覚的指示、動作のきっかけを作る支援において一定の効果がみられたが、食事開始に支援が必要となった者、食事の自立ができない者は増加していた。食事介助群のみでの前後比較では、摂食力評価、食事時間の変化では介入非介入両群とも低下していたが、非介入群での低下率が高い結果となった。また、平均の摂食量に関しては、介入群では改善、非介入群では悪化する傾向が認められた。食欲の評価法としてシニア向け食欲調査票 (Council on Nutrition Appetite Questionnaire : CNAQ) の日本語版を作成し、CNAQ により食欲低下ありと判定された者は 3 ヶ月間の体重減少者の割合が有意に高いという結果が得られ、日本語版 CNAQ の妥当性を示す根拠となった。

平成 26 年度は 2 年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は 226 名を対象に、介入後 2 年後調査を実施した。2 年間の間に対象者の認知症の進行が示唆され、認知症の進行に合わせ適宜アセスメントを行うことや、それに基づいた介入の必要性や介入内容を適宜検討していく必要があると考えられた。また、長期介入の場合には施設職員の移動や入れ替わりや担当の変更等があるため、職員により評価や支援にバラつきがでることも考えられる。施設職員同士での研修や支援方法の情報共有についての検討も今後の課題と考えられた。

本研究結果の一部は第 113 回介護給付費分科会 (H26. 11. 6) 資料に採用され、介護保健施設等入所者の口腔・栄養管理の経口維持加算等の見直しが行われた。

平成 26 年度について

### 1. 介護予防サービスにおける口腔機能向上及び栄養改善の複合的なサービス提供に関する研究

18 ヶ月間の長期介入により身体の機能面の項目では、要介護認定で有意に改善し、Barthel index でも改善傾向がみられた。また精神機能面では、複合群で口腔や栄養の単独プログラムよりも認知症重症度の維持傾向を示した。さらに精神的健康状態を示す WHO-5

は低下傾向がみられたものの、他の QOL に関する項目である VI（意欲の指標）や健康関連 QOL を示す SF-8<sup>TM</sup>において若干の改善がみられた。また SF-8<sup>TM</sup>においては、いずれの群でも身体的健康が精神的健康より向上している傾向があったが、統計学的な優位性はないにしても、複合群は口腔や栄養の単独プログラム群よりも項目間のバランスが取れているという結果であった。本複合プログラムの様に、サービスを組み合わせることにより、栄養状態の改善と口腔機能向上を通じて QOL の維持向上とともに、健康維持や社会参加といった意欲を相乗的に引き出し、高い介護予防効果が得られる可能性が示唆された。本結果で長期的な介入により効果が得られたことは、情報やトレーニングの量、頻度に効果が影響されることの裏付けとも考えられる。サービスの回数や量を調節する必要がある介護現場において最大限に効果的なサービスプログラムを提供するためには、効果的なプログラムが必要であり、要素の組み合わせや習慣化などのバランス、および計画的で継続的な介入が重要であることが示された。また要介護高齢者の精神面の健康は認知症重症度やうつに強く影響するものであり、情報提供や技術指導に加えて精神面での支援も加味したプログラムを開発する必要性が示唆された。今回の結果から複合的なサービスの提供が介護予防の目的である QOL の維持向上に効果がある可能性が示唆されたことは、特筆すべき結果と考えられた。

サービス提供のためのツールについては平成 25 年度に作成した口腔と栄養の複合手帳を改訂し、運動器の機能向上も含めた健康長寿塾マニュアルを完成させた。

## 2. 「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」を用いた自立摂食支援に関する研究

平成 26 年度は 2 年間の介入調査期間を通して調査に参加した入所者は 226 名を対象に、介入後 2 年後調査を実施した。対象者 226 名中 179 名（79.2%）に食支援が行われた。食事行動に関する項目では、介入の有無で介入前後の差は認められなかった一方で、2 年間の間に対象者の認知症の進行が示唆され、認知症の進行に合わせ適宜アセスメントを行うことや、それに基づいた介入の必要性や介入内容を適宜検討していく必要があると考えられた。また、長期介入の場合には施設職員の移動や入れ替わりや担当の変更等があるため、職員により評価や支援にバラつきがでることも考えられる。施設職員同士での研修や支援方法の情報共有についての検討も今後の課題と考えられた。

## E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

平成24年度

- 1) Ohara Y, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Sato E, Shinkai S, Yoshida H, Mataka S: Masseter muscle tension and chewing ability in older persons. *Geriatr Gerontol. Int.* 2013apr; 13(2):372-377
- 2) Ushioda T, Watanabe Y, Sanjo Y, Yamane GY, Abe S, Tsuji T, Ishiyama A. : Visual and auditory stimuli associated with swallowing activate mirror neurons: A magnetoencephalography study. *Dysphagia.* 2012 Dec;27(4):504-13.
- 3) 渡邊 裕 : 非対称症例への対応、特に呼吸機能の生理学的安定性を考慮して -鼻腔副鼻腔内処置を含む術式の検討, *矯正臨床ジャーナル* 28(11)67-74 2012.
- 4) 多比良祐子, 清住沙代, 高柳奈見, 藤平弘子, 西久保周一, 渡邊 裕, 松崎達, 芹田良平, 片倉朗 : 東京歯科大学市川総合病院の呼吸ケアチームにおける歯科衛生士のアプローチ, *歯科学報*, 113 : 47-56, 2013
- 5) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語① いま, ローテが低い *デンタルハイジーン*, 33 (1) : 86-87, 2013
- 6) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語② コートでテキベン?! *デンタルハイジーン*, 33 (2) : 200-201, 2013
- 7) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語③ 歯ブラシでメタボ改善?! *デンタルハイジーン*, 33 (3) : 308-309, 2013
- 8) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語④ 既往歴で大パニック?! *デンタルハイジーン*, 33 (4) : 412-413, 2013
- 9) 渡邊 裕 : 5 疾病の口腔ケア チーム医療による全身疾患対応型口腔ケアのすすめ 口腔ケア実施上のノウハウ Q6 がんの治療に入る患者への口腔の診察・検査項目と対応, 指導内容は? 34-35 医歯薬出版 東京, 2013
- 10) Suzuki T, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Lee S, Park H. Effects of Multicomponent Exercise on Cognitive Function in WMS-LM Older Adults with Amnesic Mild Cognitive Impairment : A Randomized Controlled Trial. *BMC Neurology*, ( in print ), 2012
- 11) 平野浩彦 口腔からみる認知症の方へのアプローチ(No.1) 認知症とはどういう病気か *デンタルハイジーン* 32 (10) : 1064-1067, 2012
- 12) 枝広あや子 口腔からみる認知症の方へのアプローチ(No.2) 認知症の方へ歯科支援を行うための基礎知識 *デンタルハイジーン* 32 (11) : 1176-1179, 2012.
- 13) 平野浩彦, 枝広あや子 【オーラルマネジメントに取り組もう 高齢期と周術期の口腔機能管理】 (第3章)疾患別のオーラルマネジメント 認知症高齢者に対するオーラルマネジメント *DENTAL DIAMOND* 37 (14) : 112-123, 2012

平成25年度

- 1) Ohara Y, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Sato E, Shinkai S, Yoshida H, Mataka S: Masseter muscle tension and chewing ability in older persons. *Geriatr Gerontol. Int.* 2013apr; 13(2):372-377
- 2) Sato E, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Sato K, Yamane G.Y, Katakura A: Detecting signs of dysphagia in patients with Alzheimer's disease with oral feeding in daily life. *Geriatr Gerontol. Int.* 2013 Aug 29. doi: 10.1111/ggi.12131. [Epub ahead of print]
- 3) 植田耕一郎、向井美恵、森田 学、菊谷 武、渡邊 裕、戸原 玄、阿部仁子、中山利利、三瓶龍一、島野嵩也、岡田猛司、鰐原賀子、石山寿子：摂食・嚥下障害に対する軟口蓋挙上装置の有効性、*日摂食嚥下リハ会誌*、 17：13-23, 2013.
- 4) 佐藤一道、吉田佳史、浮地賢一郎、有坂岳大、宇治川清登、武安嘉大、高田篤史、渡邊裕、小澤靖弘、山根源之、片倉 朗、栗山智宏、外木守雄：顎関節症患者のいびきと就寝体位に関する検討、*日歯人間ドック会誌*、8（1）：30-34, 2013.
- 5) Ogura M, Watanabe Y, Sanjo Y, Edahiro A, Sato K, Katakura A: Mirror neurons activated during swallowing and finger movements: An fMRI study. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.* [in press]
- 6) 枝広あや子, 平野浩彦, 山田律子, 千葉由美, 渡邊 裕. アルツハイマー病と血管性認知症高齢者の食行動の比較に関する調査報告：第一報食行動変化について -、*日本老年医学会雑誌*、50（5）：651-660, 2013.
- 7) 平野浩彦：世界的な超高齢社会へ向けての歯科医療のあり方 認知症の歯科医療。 *日本歯科医師会雑誌* 66(7), 686-687, 2013
- 8) Takeyasu Y, Yamane G.Y, Tonogi M, Watanabe Y, Nishikubo S, Serita R, Imura K: Decreasing the Risk of Ventilator-Associated Pneumonia by Oral Health Care Using an Oral Moisture Gel. *Bull Tokyo Dent Coll.* [in press]
- 9) Chen LK, Liu LK, Woo J, Assantachai P, Auyeung TW, Bahyah KS, Suzuki, T, et al. Sarcopenia in Asia: consensus report of the asian working group for sarcopenia. *Journal of the American Medical Directors Association.* 2014;15(2):95-101. Epub 2014/01/28.
- 10) Doi T, Makizako H, Shimada H, Park H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Suzuki, T, et al. Brain activation during dual-task walking and executive function among older adults with mild cognitive impairment: a fNIRS study. *Aging clinical and experimental research.* 2013;25(5):539-44. Epub 2013/08/21.
- 11) Doi T, Makizako H, Shimada H, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Sawa R, Suzuki, T, et al. Effects of multicomponent exercise on spatial-temporal gait parameters

- among the elderly with amnesic mild cognitive impairment (aMCI): preliminary results from a randomized controlled trial (RCT). *Archives of gerontology and geriatrics*. 2013;56(1):104-8. Epub 2012/10/16.
- 12) Doi T, Shimada H, Makizako H, Lee S, Park H, Tsutsumimoto K, Suzuki T, et al. Cognitive activities and instrumental activity of daily living in older adults with mild cognitive impairment. *Dementia and geriatric cognitive disorders extra*. 2013;3(1):398-406. Epub 2013/12/19.
  - 13) Makizako H, Doi T, Shimada H, Park H, Uemura K, Yoshida D, Suzuki T, et al. Relationship between going outdoors daily and activation of the prefrontal cortex during verbal fluency tasks (VFTs) among older adults: a near-infrared spectroscopy study. *Archives of gerontology and geriatrics*. 2013;56(1):118-23. Epub 2012/09/22.
  - 14) Makizako H, Doi T, Shimada H, Yoshida D, Takayama Y, Suzuki T. Relationship between dual-task performance and neurocognitive measures in older adults with mild cognitive impairment. *Geriatrics & gerontology international*. 2013;13(2):314-21. Epub 2012/06/15.
  - 15) Makizako H, Shimada H, Park H, Doi T, Yoshida D, Uemura K, Suzuki T, et al. Evaluation of multidimensional neurocognitive function using a tablet personal computer: test-retest reliability and validity in community-dwelling older adults. *Geriatrics & gerontology international*. 2013;13(4):860-6. Epub 2012/12/13.
  - 16) Shimada H, Ishii K, Ishiwata K, Oda K, Suzukawa M, Makizako H, Suzuki T, et al. Gait adaptability and brain activity during unaccustomed treadmill walking in healthy elderly females. *Gait & posture*. 2013;38(2):203-8. Epub 2012/12/26.
  - 17) Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Suzuki T, et al. Combined prevalence of frailty and mild cognitive impairment in a population of elderly Japanese people. *Journal of the American Medical Directors Association*. 2013;14(7):518-24. Epub 2013/05/15.
  - 18) Shimada H, Suzuki T, Suzukawa M, Makizako H, Doi T, Yoshida D, et al. Performance-based assessments and demand for personal care in older Japanese people: a cross-sectional study. *BMJ open*. 2013;3(4). Epub 2013/04/13.
  - 19) Suzuki T. [Fall risk and fracture. Fall risk assessment]. *Clinical calcium*. 2013;23(5):661-7. Epub 2013/05/01.
  - 20) Suzuki T, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Ito K, et al. A randomized controlled trial of multicomponent exercise in older adults with mild cognitive impairment. *PloS one*. 2013;8(4):e61483. Epub 2013/04/16.
  - 21) Uemura K, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Suzuki.

- T, et al. Cognitive function affects trainability for physical performance in exercise intervention among older adults with mild cognitive impairment. *Clinical interventions in aging*. 2013;8:97-102. Epub 2013/02/08.
- 22) Yoshida D, Shimada H, Park H, Anan Y, Ito T, Harada A, Suzuki T, et al. Development of an equation for estimating appendicular skeletal muscle mass in Japanese older adults using bioelectrical impedance analysis. *Geriatrics & gerontology international*. 2014. Epub 2014/01/24.
- 23) Yoshida D, Suzuki T, Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, et al. Using two different algorithms to determine the prevalence of sarcopenia. *Geriatrics & gerontology international*. 2014;14 Suppl 1:46-51. Epub 2014/01/24.
- 24) Kikutani T, Yoshida M, Enoki H, Yamashita Y, Akifusa S, Shimazaki Y, Hirano H, Tamura F. Relationship between nutrition status and dental occlusion in community-dwelling frail elderly people. *Geriatr Gerontol Int*. 13(1):50-4. 2013
- 25) Ohara, Y., Hirano, H., Yoshida, H., Shuichi, O., Ihara, K., Fujiwara Y. and Mataka S. Prevalence and factors associated with xerostomia and hyposalivation among community-dwelling older people in Japan. *Gerodontology* (in press)
- 26) Kojima N, Kim H, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T. Association of knee-extension strength with instrumental activities of daily living in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. (in press)
- 27) 大島浩子, 鈴木隆雄. 在宅療養継続高齢者の追跡調査. *癌と化学療法*. 2013;40(Suppl.II):211-2.
- 28) 大島 浩子, 鈴木隆雄. 【在宅医療の現状と今後の展望】 在宅医療における科学的研究の展望. *医薬ジャーナル*. 2013;49(4):1131-5.
- 29) 牧迫飛雄馬, 島田 裕之, 鈴木隆雄 et al. 日本語版-改訂 Gait Efficacy Scale の信頼性および妥当性. *理学療法学*. 2013;40(2):87-95.
- 30) 鈴木隆雄. リハビリテーションと介護 アルツハイマー病の運動療法 特に予防の視点から. *現代医学*. 2013;61(2):271-9.
- 31) 鈴木隆雄. 【高齢者「主治医」事典】 高齢者の生活と診療 食 高齢者への栄養介入による要介護予防の実際. *JIM: Journal of Integrated Medicine*. 2013;23(10):835-8.
- 32) 鈴木隆雄. 【筋機能からみた後期高齢者の健康】 後期高齢者の生活機能の低下. *体育の科学*. 2013;63(5):344-9.
- 33) 鈴木隆雄. 【転倒リスクと骨折～現状と課題～】 転倒リスクの評価. *Clinical calcium*. 2013;23(5):661-7.
- 34) 鈴木隆雄. 【予防と理学療法】 生活習慣病の予防と運動. *理学療法ジャーナル*. 2013;47(4):281-7.
- 35) 鈴木隆雄. 【サルコペニア-成因と対策】 概念・診断基準 サルコペニアの概念と診

- 断基準. 医学のあゆみ. 2014;248(9):643-8.
- 36) 鈴木隆雄. 科学的根拠に基づく認知症予防. Olive. 2014;4(1):55-7.
- 37) 鈴木隆雄, 下方 浩史. 加齢性筋肉減少症(サルコペニア)の基礎と臨床. Locomotive Pain Frontier. 2013;2(2):80-5.
- 38) 岩佐康行, 渡邊 裕, 古屋純一, 義歯の後は“食事指導!”“嚥めたら終わり”から健康長寿のサポートへ The Quintessence, 32(7): 1506-1529, 2013.
- 39) 渡邊 裕, 終末期の口腔ケア up date 終末期の口腔ケアの最新知見 看護技術,59(7): 745-748, 2013.
- 40) 渡邊 裕:「歯科・口腔領域からみた高齢期の健康増進」 Geriatric Medicine,51: 947-951, 2013.
- 41) 枝広あや子:特集 認知症高齢者の食べる機能の課題と対応 変性性認知症高齢者への食支援. 日本認知症ケア学会誌, 2014, 12(4):671-681.
- 42) 枝広あや子:認知症高齢者の摂食・嚥下障害. 老年精神医学雑誌, 2014, 25(増刊-I), 117-122.
- 43) 枝広あや子:FORUM 世界的な超高齢社会へ向けての歯科医療の在り方6 認知症の摂食・嚥下障害. 日本歯科医師会雑誌, 2013, 66(8):792-793.
- 44) 渡邊 裕(著分担):高齢者歯科と臨床検査 p86-96, 全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版, 東京, 2014
- 45) 渡邊 裕(著分担):高齢者の薬剤服用 p104-108, 全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版, 東京, 2014
- 46) 渡邊 裕(著分担):通院困難者への対応 p120-122, 歯科衛生士国家試験対策検討会 ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④ 第4版 臨床歯科医学2(顎・口腔領域の疾患と治療/不正咬合と治療/小児・高齢者・障害者の理解と歯科治療), 医歯薬出版,東京,2014
- 47) 渡邊 裕(著分担):高齢者における口腔領域の疾患 カンジダ症 p88-89, 歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版 永末書店, 東京, 2014
- 48) 渡邊 裕(著分担):高齢者における口腔領域の疾患 前癌病変 p90, 歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版 永末書店, 東京, 2014
- 49) 渡邊 裕(著分担):高齢者における口腔領域の疾患 扁平苔癬 p91, 歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版 永末書店, 東京, 2014
- 50) 渡邊 裕(著分担):意識障害のある患者の口腔ケア p49-54, 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版(監) 菊谷武, Gakken, 東京, 2013
- 51) 渡邊 裕(著分担):人工呼吸器装着患者の口腔ケア p55-61, 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版(監) 菊谷武, Gakken, 東京, 2013
- 52) 渡邊 裕(著分担):口腔ケアを拒否する患者への口腔ケア p87-92, 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版(監) 菊谷武, Gakken, 東京, 2013

- 53) 渡邊 裕 (著分担) : 歯科医師に紹介すべき口腔粘膜疾患 p131-136, 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版 (監) 菊谷武, Gakken, 東京, 2013
- 54) 渡邊 裕 (著分担) : 急性期医療における気道感染予防 p61, 基礎から学ぶ口腔ケア 第2版 (監) 菊谷武, Gakken, 東京, 2013
- 55) 渡邊 裕 (編集・著分担) : 口腔ケアはなぜ必要? P2-5, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 56) 渡邊 裕 (編集・著分担) : 口腔細菌と口腔内の観察のポイント P6-12, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 57) 渡邊 裕 (編集・著分担) : <歯周病>歯肉を押すと、歯のまわりから白い膿のようなものが出てきます、このままでよいのですか? P26-28, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 58) 渡邊 裕 (編集・著分担) : <動揺歯>動揺歯が抜けそうで怖いのですが、どのような用具で、どのような方法で磨けば良いのですか? P32-34, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 59) 渡邊 裕 (編集・著分担) : <NPPV の患者>非侵襲的人工呼吸器 (NPPV) 管理中の患者の口腔ケアの方法について教えてください。 P74-76, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 60) 渡邊 裕 (編集・著分担) : <気道食道分離手術後の患者>気道食道分離手術をした人の口腔ケアは必要ですか? P88-89, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 61) 渡邊 裕, 西久保周一 (編集・著分担) : <妊娠中>妊娠中の口腔ケアはどのようなことに注意して行なえばよいのですか? P90-94, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 62) 渡邊 裕, (編集・著分担) : <がん終末期の患者>がん終末期の口腔ケアのポイントを教えてください P112-114, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 63) 渡邊 裕, (編集・著分担) : <糖尿病患者>糖尿病患者の口腔ケアはどのようなことに注意して行なえばよいのですか? P128-132, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 64) 渡邊 裕, (編集・著分担) : <口腔湿潤剤がない場合>口腔ケアのための口腔湿潤剤を購入出来ません、何を代わりに使用したらよいのですか? P156-159, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 65) 渡邊 裕, (編集・著分担) : <在宅での口腔ケア>要介護レベルの患者の在宅での口腔ケアのポイントは? P162-163, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 66) 渡邊 裕, (編集・著分担) : <摂食・嚥下機能評価の方法>看護師として舌や義歯の観察・評価方法は? P168-169, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 67) 森下志穂 (著分担) : <口腔ケアの唾液で誤嚥する>口腔ケアの唾液で誤嚥する患者

- は、口腔ケアは行わないほうがよいですか？ p50-51, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 68) 森下志穂 (著分担) : <神経疾患の患者>脳性麻痺患者で緊張・不随意運動が強い場合は、どのように口腔ケアをすればよいですか p106-107, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 69) 森下志穂 (著分担) : <神経疾患の患者>脳性麻痺患者で口腔ケアを開始時に、口を大きく動かしたり、唇など噛んで傷つけてしまうときはどうしたらよいですか？ p108-109, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 70) 森下志穂 (著分担) : <歯肉増殖症の患者>ニフェジピン・フェニトイン歯肉増殖症で歯が見えない場合、どのように口腔ケアを行えばよろしいですか？ p110-111, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 71) 森下志穂 (著分担) : <小児>重度障がい児は口腔ケア中に無呼吸になりやすく、酸素飽和度が大きく変動します。口腔ケアを中断ないし中止する目安はありますか？また、人工呼吸器を装着をしている患児の口腔ケア？ p139-140, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 72) 森下志穂 (著分担) : <口腔ケア用具の基本的な使い方>口腔ケア用具の基本的な使い方と使用上の注意点を教えてください (歯ブラシ、スポンジブラシ、タフト型歯ブラシ、舌ブラシ、歯間ブラシ、フロス、歯みがきガーゼ) p142-144, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 73) 渡邊 裕 (著分担) : 非がん疾患患者の口腔の緩和医療総論 疾患別の経過と予後とその対応 その他の非がん疾患 p156-164, 口腔の緩和医療・緩和ケア (監) 杉原一正, 岩淵博史, 永末書店, 京都, 2013
- 74) 渡邊 裕 (著分担) : 6.4 口腔ケア 3 疾患・症状に対応した口腔ケア (2) 気管挿管患者の口腔ケア p883-885, 口腔科学 (監) 戸塚靖則, 高戸 毅, 朝倉書店, 東京, 2013
- 75) 渡邊 裕 (著分担) : 6.5 リハビリテーション 1 摂食・嚥下リハビリテーション (2) 誤嚥性肺炎の予防とその対処法 p894-896, 口腔科学 (監) 戸塚靖則, 高戸 毅, 朝倉書店, 東京, 2013
- 76) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語④ 既往歴で大パニック?! デンタルハイジーン, 33 (4) : 412-413, 2013
- 77) 渡邊 裕 : 5 疾病の口腔ケア チーム医療による全身疾患対応型口腔ケアのすすめ 口腔ケア実施上のノウハウ Q6 がんの治療に入る患者への口腔の診察・検査項目と対応, 指導内容は? 34-35 医歯薬出版 東京, 2013
- 78) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語⑤ 覚えて安心! 感染対策 デンタルハイジーン, 33 (5) : 526-527, 2013
- 79) 渡邊 裕, 知ってるあなたは一步上ゆくDH! おさえておきたい医科&介護用語⑥

- 健康な口でサルコペニア&介護予防 デンタルハイジーン,33 (6) : 646-647, 2013
- 80) 渡邊 裕、(編集・著分担) : 痰の吸引について P89, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 81) 渡邊 裕、(編集・著分担) : 出産前のう蝕の治療 P95, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 82) 渡邊 裕、(編集・著分担) : 終末期における口腔ケア P160, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 83) 渡邊 裕、(編集・著分担) : アセスメントプランニング例 P173, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 84) 渡邊 裕、(編集・著分担) : 歯科用語集 P177-179, 口腔ケアの疑問解決 Q&A, Gakken, 東京, 2013
- 85) 木戸康博、小倉嘉夫、真鍋祐之編者、田中弥生他 9名: 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第1巻 栄養ケア・マネジメント 基礎と概念,B5版 全119頁 99-103 日本栄養改善学会 監修 医歯薬出版(株)2013
- 86) 井上修二、上原誉志夫、岡純、田中弥生編者他 27人: 最新 臨床栄養学 新ガイドライン対応, B5版 全394頁 光生館,2013
- 87) 中村丁次、川島由起子、加藤昌彦編、田中弥生他 9名: 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第4巻 臨床栄養学 B5版 全141頁 87-96 日本栄養改善学会 監修 医歯薬出版(株),2013
- 88) 田中弥生(編集協力・執筆) : B5版 470頁 新日本法規,2013
- 89) 木戸康博、小林ゆき子 田中弥生他 15人 : 栄養科学シリーズ NEXT 応用栄養学実習,A4版,2013
- 90) 田中弥生 恩田理恵 松田早苗他: NHK 今日の健康 DVD,NHKエディタショナル,2013
- 91) 田中弥生 : 被災地を支援する管理栄養士活動 p76-81, 心と社会,日本精神衛生会, 東京,2013
- 92) 田中弥生:在宅訪問管理栄養士の課題と展望,医歯薬出版臨床栄養,123,6:763-768,東京,2013
- 93) 田中弥生 : 情報を正確に伝えるためのツール栄養手帳とその進化,食品産業新聞,食品産業新聞社 2013
- 94) 田中弥生,米山由美子:在宅訪問栄養食事指導, 公益法人フランスベットのメディカルホームケア研究助成財団,2013
- 95) 田中弥生:実践を重視したカリキュラム、臨床現場で対応できる人間性を磨く、ヒューマンニョトリション, Vol.22,24-27 ,(株)日本医療企画,Vol.22,64-72,2013
- 96) 藤井 真,田中弥生:消化器がんの術式と栄養管理の実践講座(食道がん),ヒューマンニョトリション, Vol.23,64-72 ,(株)日本医療企画,Vol.22,64-72,2013
- 97) 藤井 真,田中弥生:消化器がんの術式と栄養管理の実践講座(胃がん),ヒューマンニョ

- ョトリション, Vol.23,64-72 ,(株)日本医療企画,Vol.23,64-72,2013
- 98) 藤井 真,田中弥生:消化器がんの術式と栄養管理の実践講座(大腸がん),ヒューマンニ  
ーョトリション, Vol.23,64-72 ,(株)日本医療企画,Vol.24,64-72,2013
- 99) 平野浩彦:最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第2版,医歯薬出版、pp34-44, 2013、
- 100) 平野浩彦:第6章 1 非がん疾患患者の口腔領域における緩和医療・緩和ケアの視点  
(杉原一正、岩渕博史監修、平野浩彦他編集)、永末書店、東京、2013、p128-133
- 101) 平野浩彦:第6章 2-1 認知症①:認知症の摂食・嚥下障害(杉原一正、岩渕博史監  
修、平野浩彦他編集)、永末書店、東京、2013、p134-139
- 102) 平野浩彦(共著):ジェロントロジー入門(日本応用老年学会編著)第9章5 口腔ケ  
ア、2013、p216-217
- 103) 平野浩彦、小原由紀:生活機能向上!口腔機能トレーニング. 認知症高齢者への対応.  
通所介護&リハ, 11(1), pp. 80-85, 2013.
- 104) 平野浩彦:高齢期 口腔機能低下を診る視点. DH Style 増刊号 口腔内の病変・異  
常に気付く観察眼を養おう, pp16-119, デンタルダイヤモンド社, 2013
- 105) 平野浩彦、枝広あや子:拒食・異食・嚥下障害をどうする?認知症に伴う“食べる障  
害”を支えるケア. エキスパートナース, 29(2), pp22-27, 2013
- 106) 枝広あや子:【認知症の方に対するケア!現場で行う介助の工夫】食べるための力は  
こうやって引き出す, 認知症ケア最前線 41, 株式会社 QOL サービス, 広島, 2013  
p28-35
- 107) 枝広あや子:【看護師が実践する疾患別口腔保清チェック】脳卒中維持期の口腔保清  
チェック, 臨床看護 39 (10), へるす出版, 東京, 2013, p1370-1376
- 108) 枝広あや子:第7章 3. 特別養護老人ホームでの非がん疾患終末期, 口腔の緩和医  
療・緩和ケア (杉原一正、岩渕博史監修、平野浩彦他編集)、永末書店、東京、2013、  
p204-206
- 109) 枝広あや子:【Chapter2 口腔ケアのための基本知識】Q 口から食べていないのに入れ  
歯を入れる必要はありますか?入れ歯を使わないほうがよい場合は、どのようなとき  
ですか? 口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプロ  
ーチまで。(渡邊裕編)、学研メディカル秀潤社、東京、2013. p23-25
- 110) 枝広あや子:【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 顎が外れている・外れやすい人  
のケアで気をつけるポイントは?口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから  
病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)、学研メディカル秀潤社、東京、2013.  
p46-49
- 111) 枝広あや子:【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 後頸部拘縮で首が反ってしまう  
人の口腔ケアのポイントを教えてください, 口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセス  
メントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)、学研メディカル秀潤社、東  
京、2013. p52-54

- 112) 枝広あや子：【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 胃瘻患者も口腔ケアをする必要がありますか，ケアのタイミングや逆流など注意することがありますか？口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)，学研メディカル秀潤社，東京，2013. p86-87
- 113) 枝広あや子：【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 非がんの終末期の口腔ケアのポイントを教えてください，口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)，学研メディカル秀潤社，東京，2013. p115-117
- 114) 枝広あや子：【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 感情失禁や顎の不随意運動，くいしばりにより唇や反対側の歯肉を傷つけてしまう人のケアのポイントは？口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)，学研メディカル秀潤社，東京，2013. p118-120
- 115) 枝広あや子：【Chapter3 症状・状態別の口腔ケア】Q 認知症で傾眠傾向のある人は寝ている間にケアしてもよいのですか？口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)，学研メディカル秀潤社，東京，2013. p124-127
- 116) 枝広あや子：【Chapter5 評価・アセスメント・在宅など】Q 在宅療養患者の口腔ケア支援のポイントを教えてください，口腔ケアの疑問解決 Q&A 評価・アセスメントから病態にあわせたアプローチまで。(渡邊裕編)，学研メディカル秀潤社，東京，2013. p164-167
- 117) 枝広あや子，平野浩彦：実践 食事ケア入門（最終回）経管栄養になった際の食事支援，認知症ケア最前線 37，株式会社 QOL サービス，広島，2013，p85-90

平成26年度

- (1) ○Watanabe Y, Hirano H, Matsushita K: How masticatory function and periodontal disease relate to senile dementia. Japanese Dental Science Review, 2015 Feb;51(1):34-40.
- (2) 小原由紀，高城大輔，枝広あや子，森下志穂，○渡邊 裕，平野浩彦，認知症グループホーム入居高齢者における認知症重症度と口腔機能および栄養状態の関連 日衛学誌，9，69-79，2015
- (3) ○Watanabe Y, Age Changes in Oral Function, In Reference Module in Biomedical Sciences, Elsevier, 2014.
- (4) Murakami M, Hirano H, ○Watanabe Y, Sakai K, Kim H, Katakura A. Relationship between chewing ability and sarcopenia in Japanese community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int, 2014 Nov 3.
- (5) Ohara Y, Hirano H, ○Watanabe Y, Obuchi S, Yoshida H, Fujiwara Y, Ihara K, Kawai H, Mataka S. Factors associated with self-rated oral health among

- community-dwelling older Japanese: A cross-sectional study. *Geriatr Gerontol Int*, 2014 Sep 20.
- (6) Saito H, Watanabe Y, Sato K, Ikawa H, Yoshida Y, Katakura A, Takayama S, Sato M: Effects of professional oral health care on reducing the risk of chemotherapy-induced oral mucositis. *Support Care Cancer*, 22(11):2935-2940,2014.
  - (7) Takeyasu Y, Yamane G.Y, Tonogi M, Watanabe Y, Nishikubo S, Serita R, Imura K: Decreasing the Risk of Ventilator-Associated Pneumonia by Oral Health Care Using an Oral Moisture Gel. *Bull Tokyo Dent Coll*, 55(2):95-102, 2014.
  - (8) Ogura M, Watanabe Y, Sanjo Y, Eda Hiro A, Sato K, Katakura A: Mirror neurons activated during swallowing and finger movements: An fMRI study. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*, 26:188-197,2014.
  - (9) Sato E, Hirano H, Watanabe Y, Eda Hiro A, Sato K, Yamane G.Y, Katakura A: Detecting signs of dysphagia in patients with Alzheimer's disease with oral feeding in daily life. *Geriatr Gerontol. Int*, 14(3):549-555,2014.
  - (10) Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Hotta R, Nakakubo S, Harada K, Lee S, Bae S, Harada K, Suzuki T. Cognitive functioning and walking speed in older adults as predictors of limitations in self-reported instrumental activity of daily living: prospective findings from the obu study of health promotion for the elderly. *Int J Environ Res Public Health*. 2015 Mar 11;12(3):3002-13.
  - (11) Hotta R, Doi T, Shimada H, Makizako H, Yoshida D, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Park H, Suzuki T. Cigarette smoking and cognitive health in elderly Japanese. *Am J Health Behav*. 2015 May;39(3):294-300.
  - (12) Lee S, Shimada H, Park H, Makizako H, Lee S, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Suzuki T. The Association Between Kidney Function and Cognitive Decline in Community-Dwelling, Elderly Japanese People. *J Am Med Dir Assoc*. 2015 Apr 1;16(4):349.e1-5.
  - (13) Harada K, Lee S, Park H, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Suzuki T. Going outdoors and cognitive function among community-dwelling older adults: Moderating role of physical function. *Geriatr Gerontol Int*. 2015 Jan 17.
  - (14) Doi T, Makizako H, Shimada H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Park H, Suzuki T. Objectively measured physical activity, brain atrophy, and white matter lesions in older adults with mild cognitive impairment. *Exp Gerontol*. 2015 Feb;62:1-6.
  - (15) Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T.

- Association of insulin-like growth factor-1 with mild cognitive impairment and slow gait speed. *Neurobiol Aging*. 2015 Feb;36(2):942-7.
- (16) Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Suzuki T. Apolipoprotein E genotype and physical function among older people with mild cognitive impairment. *Geriatr Gerontol Int*. 2015 Apr;15(4):422-7.
- (17) Kim H, Suzuki T, Kim M, Kojima N, Yoshida Y, Hirano H, Saito K, Iwasa H, Shimada H, Hosoi E, Yoshida H. Incidence and predictors of sarcopenia onset in community-dwelling elderly Japanese women: 4-year follow-up study. *J Am Med Dir Assoc*. 2015 Jan;16(1):85.e1-8.
- (18) Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Liu-Ambrose T, Park H, Lee S, Suzuki T. Physical frailty predicts incident depressive symptoms in elderly people: prospective findings from the obu study of health promotion for the elderly. *J Am Med Dir Assoc*. 2015 Mar;16(3):194-9.
- (19) Makizako H, Liu-Ambrose T, Shimada H, Doi T, Park H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Suzuki T. Moderate-intensity physical activity, hippocampal volume, and memory in older adults with mild cognitive impairment. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2015 Apr;70(4):480-6.
- (20) Doi T, Shimada H, Park H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Nakakubo S, Hotta R, Suzuki T. Cognitive function and falling among older adults with mild cognitive impairment and slow gait. *Geriatr Gerontol Int*. 2014 Nov 3.
- (21) Tsutsumimoto K, Doi T, Shimada H, Makizako H, Uemura K, Ando H, Suzuki T. Self-reported Exhaustion is Associated with Small Life Space in Older Adults with Mild Cognitive Impairment. *J Phys Ther Sci*. 2014 Dec;26(12):1979-83.
- (22) Uemura K, Shimada H, Doi T, Makizako H, Park H, Suzuki T. Depressive symptoms in older adults are associated with decreased cerebral oxygenation of the prefrontal cortex during a trail-making test. *Arch Gerontol Geriatr*. 2014 Sep-Oct;59(2):422-8.
- (23) Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Hirano H, Kojima N, Hosoi E, Suzuki T. Association between self-reported urinary incontinence and musculoskeletal conditions in community-dwelling elderly women: A cross-sectional study. *Neurourol Urodyn*. 2014 Jan 28.
- (24) Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, Lee S, Suzuki T. Depressive symptoms and cognitive performance in older adults. *J Psychiatr Res*. 2014 Oct;57:149-56.
- (25) Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Lee S, Park H, Suzuki T. A large, cross-sectional observational study of serum BDNF, cognitive function, and mild cognitive impairment in the elderly. *Front*

- Aging Neurosci. 2014 Apr 15;6:69.
- (26) Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Anan Y, Suzuki T. Cognitive function and gait speed under normal and dual-task walking among older adults with mild cognitive impairment. BMC Neurol. 2014 Apr 1;14:67.
- (27) Uemura K, Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Yoshida D, Anan Y, Ito T, Lee S, Park H, Suzuki T. Effects of mild and global cognitive impairment on the prevalence of fear of falling in community-dwelling older adults. Maturitas. 2014 May;78(1):62-6.
- (28) Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Uemura K, Anan Y, Park H, Lee S, Ito T, Suzuki T. The combined status of physical performance and depressive symptoms is strongly associated with a history of falling in community-dwelling elderly: cross-sectional findings from the Obu Study of Health Promotion for the Elderly (OSHPE). Arch Gerontol Geriatr. 2014 May-Jun;58(3):327-31.
- (29) Yoshida D, Shimada H, Park H, Anan Y, Ito T, Harada A, Suzuki T. Development of an equation for estimating appendicular skeletal muscle mass in Japanese older adults using bioelectrical impedance analysis. Geriatr Gerontol Int. 2014 Oct;14(4):851-7.
- (30) Yoshida D, Suzuki T, Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Ito T, Lee S. Using two different algorithms to determine the prevalence of sarcopenia. Geriatr Gerontol Int. 2014 Feb;14 Suppl 1:46-51.
- (31) Kojima N, Kim H, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T. Association of knee-extension strength with instrumental activities of daily living in community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. 2014 Jul;14(3):674-80.
- (32) 木戸康博,伊達ちぐさ他 10 人編者,田中弥生他 95 人編集協力者,栄養学実践用語集,全 291 頁 医歯薬出版,東京,2014.
- (33) 田中弥生,地域包括ケアシステムにおける栄養管理の重要性,日本静脈経腸栄養学会機関誌, 29(5):3-9,2014.
- (34) 田中弥生,高齢者の摂食・嚥下機能低下に立ち向かう,月刊メニューアイディア,(株)食品産業新聞社, 38(10):10-12, 2014.
- (35) 田中弥生他 13 人 NHK きょうの健康,(株)主婦と友社,2014.5
- (36) 田中弥生,横山典子,本川佳子,中澤優,久野譜也,タブレット端末によるセルフマネジメントプログラムが在宅酸素療法患者の重症化予防に及ぼす効果,日本体力医学会,2014,9

- (37) 田中弥生,横山典子,本川佳子,中澤優,久野譜也, タブレット端末のセルフマネジメントプログラムが在宅 酸素療養患者の重症化予防に及ぼす効果,日本臨床栄養学会, 2014,10
- (38) ○田中弥生 (執筆): 第 4 卷臨床栄養学 基礎, 日本栄養改善学会, 医歯薬出版, 東京, 2013.
- (39) 田中弥生 (執筆): 栄養教育論, 建はく社, 東京, 2013.
- (40) ○田中弥生:在宅訪問管理栄養士の課題と展望,医歯薬出版臨床栄養,123,6:763-768,東京,2013
- (41) 田中弥生(編集協力・執筆): 管理栄養士・栄養士のための困りごと相談ハンドブック, 新日本法規,東京,2013.
- (42) ○田中弥生 (監修): 介護の栄養管理,ナツメ社, 東京, 2012.
- (43) 田中弥生: 日本呼吸療法医学学会誌「人工呼吸」別冊,29:75-120,2012.
- (44) ○田中弥生,高橋史江,宮本守: 介護予防での栄養改善サービスの問題点,経済学的アプローチを用いて,駒沢女子大学「研究紀要」,19:281-293, 2012.
- (45) ○田中弥生: 被災地を支援する管理栄養士活動. 心と社会,43(3):76-81, 2012.
- (46) 杉橋啓子, 山田純生, 水間正澄, 西岡葉子, ○田中弥生他 23 名: 実践介護食事論,第一出版株式会社,東京,2012.
- (47) ○枝広あや子: 特集 認知症高齢者の食べる機能の課題と対応 変性性認知症高齢者への食支援. 日本認知症ケア学会誌, 12(4):671-681,2014.
- (48) ○枝広あや子: 認知症高齢者の摂食・嚥下障害. 老年精神医学雑誌, 25 (増刊-I) :117-122,2014.
- (49) Kuroda A, Tanaka T, ○Hirano H, Ohara Y, Kikutani T, Furuya H, Obuchi SP, Kawai H, Ishii S, Akishita M, Tsuji T, Iijima K. Eating Alone as Social Disengagement is Strongly Associated With Depressive Symptoms in Japanese Community-Dwelling Older Adults. J Am Med Dir Assoc. 2015 Feb 14. pii: S1525-8610(15)00079-1.
- (50) Ohara Y, Yoshida N, Kono Y, ○Hirano H, Yoshida H, Matakai S, Sugimoto K. Effectiveness of an oral health educational program on community-dwelling older people with xerostomia. Geriatr Gerontol Int. 2014 May 6.
- (51) Ishii S, Tanaka T, Shibasaki K, Ouchi Y, Kikutani T, Higashiguchi T, Obuchi SP, Ishikawa-Takata K, ○Hirano H, Kawai H, Tsuji T, Iijima K. Development of a simple screening test for sarcopenia in older adults. Geriatr Gerontol Int. 1:93-101,2014.
- (52) Seino S, Shinkai S, Fujiwara Y, Obuchi S, Yoshida H, Hirano H, Kim HK, Ishizaki T, Takahashi R; TMIG-LISA Research Group. Reference values and age and sex differences in physical performance measures for community-dwelling older Japanese: a pooled analysis of six cohort studies. PLoS One. 2014 Jun

12:9(6):e99487.

- (53) Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Hirano H, Kojima N, Hosoi E, Suzuki T. Association between self-reported urinary incontinence and musculoskeletal conditions in community-dwelling elderly women: A cross-sectional study. *NeuroUrol Urodyn*. 2014 Jan 28.
- (54) Kojima N, Kim H, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T. Association of knee-extension strength with instrumental activities of daily living in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2014 Jul;14(3):674-80.

## 2. 学会発表・講演

平成24年度

- 1) 渡邊 裕：歯科から考える集中治療における口腔ケアベストプラクティスとは 第40回日本集中治療医学会 パネルディスカッション 2013/3/1 松本
- 2) 渡邊 裕：感染対策としての口腔管理 第160回ICD講習会 第22回(社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会 2013/3/31 東京
- 3) 佐藤絵美子、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、片倉 朗：アルツハイマー型認知症のMNA-SFによる栄養評価と口腔機能の関連 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2013/2/21・22 金沢
- 4) 田中弥生、工藤美佳、岡田晋吾、松崎政三、渡邊 裕：地域NSTにおける栄養管理ツールの社会ネットワークによる有用性の検討 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2013/2/21・22 金沢
- 5) 三條祐介、枝広あや子、渡邊裕、他：脳卒中地域連携クリニカルパスの成果と今後の課題について。第57回日本口腔外科学会総会・学術大会 2012年10月19-21日 横浜市
- 6) 渡邊裕、枝広あや子、他：脳卒中地域連携クリニカルパスにおける歯科の役割 歯科診療情報シートの活用について。第22回日本歯科医学会総会 2012年11月9-11日 大阪
- 7) 越野寿、渡邊裕、他：東日本大震災被災地における「敬老の日高齢者健康相談」報告 第22回日本歯科医学会総会 2012年11月9-11日 大阪
- 8) 渡邊裕：高齢者の心身の特性 実践！在宅療養支援歯科診療セミナー。2012年10月21日 大阪
- 9) 渡邊裕：在宅療養を支援するために必要な口の知識 在宅栄養支援の和・愛知。2012年11月4日 名古屋市
- 10) 渡邊裕：高齢者の摂食嚥下障害と在宅療養支援 口腔の重要性と口腔ケア。熊谷第3回地域医療講演会。2012年11月15日 熊谷市

- 11) 平野浩彦、枝広あや子、渡邊裕、鈴木隆雄、他：認知症高齢者の摂食・嚥下障害. 第 22 回日本歯科医学会総会 2012 年 11 月 9-11 日 大阪市
- 12) 平野浩彦 高齢者の特性と健康状態の把握 日本歯科衛生士会 在宅診療認定研修会 2012 年 10 月 6 日 東京
- 13) 平野浩彦 認知症の食を支える基礎知識 日本有病者歯科学会 研修会 2012 年 10 月 14 日 東京
- 14) 平野浩彦 口腔機能向上サービス 神奈川県 介護予防従事者研修会 2012 年 10 月 22 日 相模原市
- 15) 平野浩彦 高齢社会に対応するために 老年学からの視点 広島大学歯学部 広島県歯科学会 2012 年 10 月 28 日 広島市
- 16) 平野浩彦 いまさら聞けない要介護高齢者への口腔ケア メディカル情報サービス研修会 2012 年 10 月 31 日 仙台市
- 17) 平野浩彦 訪問歯科診療におけるリスクマネジメント 日本歯科医師会 歯の健康力推進歯科医師等養成講習会 2012 年 11 月 4 日 東京
- 18) 平野浩彦 認知症の方の食事のための介入マニュアル 愛知県歯科衛生士会 研修会 2012 年 11 月 15 日 名古屋市
- 19) 平野浩彦 認知症の食を支える基礎知識 長野摂食・嚥下リハビリテーション研究会 研修会 2012 年 11 月 17 日 塩尻市
- 20) 平野浩彦 認知症の食を支える基礎知識 福岡歯科医師会 九州・山口口腔ケアシンポジウム 2012 年 11 月 18 日 福岡市
- 21) 平野浩彦 お口から始まる介護予防 文京区 区民公開講座 2012 年 11 月 19 日 東京
- 22) 平野浩彦 お口から健康力アップ 港区 区民公開講座 2012 年 11 月 20 日 東京
- 23) 平野浩彦 お口のケアで元気アップ 鎌ヶ谷市 市民公開講座 2012 年 11 月 29 日 鎌ヶ谷市
- 24) 平野浩彦 認知症の人の食支援研究会趣旨説明 認知症の人の食支援研究会 講演会 2012 年 12 月 16 日 横浜市
- 25) 田中弥生 呼吸ケアにおける栄養管理の重要性とチーム医療 在宅呼吸ケアにおける栄養管理 第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 シンポジウム 2012 年 11 月 23 日 福井市
- 26) 枝広あや子 「“食べられない”を支援するアプローチ」第 11 回病態栄養セミナー 2012 年 10 月 14 日 東京
- 27) 枝広あや子 認知症の方の食事のための介入マニュアル 愛知県歯科衛生士会 研修会 2012 年 11 月 6 日 岡崎市

平成25年度

- 1) 渡邊 裕：洗浄に代わる感染対策としての口腔湿潤剤の応用 一般社団法人日本老年歯科医学会主催「口腔湿潤剤フォーラム」ミニレクチャー 2013/5/12 神奈川
- 2) 渡邊 裕：吸器合併症を防ぐオーラルマネージメント 感染症対策としての口腔ケアを考える。そのベストプラクティスとは？ 第35回日本呼吸療法医学会学術総会 シンポジウム 2013/7/21 東京
- 3) 渡邊 裕：「在宅歯科医療における歯科衛生士の活躍の場」第28回日本老年学会総会 シンポジウム 2013/6/6 大阪
- 4) 渡邊 裕：口腔ケアのチップス ～挿管・非挿管人工呼吸管理中の口腔ケアを中心に～ 第15回日本救急看護学会学術集会 2013/10/19 福岡
- 5) 渡邊 裕：「病診連携のためのシームレスな口腔ケア」平成25年度日本口腔衛生学会 口腔衛生関東地方研究会 シンポジウム「保健・医療・介護の根底をつなぐ口腔ケア」 2013/12/7 東京
- 6) Hirohiko HIRANO, Emiko SATO, Yutaka WATANABE, Ayako EDAHIRO, Yuki OHARA, Shiho MORISHITA, Haruka TOHARA and Yumi CHIBA (Japan) 「A SURVEY OF ORAL AND SWALLOWING FUNCTIONS FOCUSING ON SILENT ASPIRATION AMONG DEMENTIA ELDERLY CLIENTS」 The20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics June 25 2013, Seoul , Korea
- 7) Shiho MORISHITA, Yutaka WATANABE, Hirohiko HIRANO, Yuki OHARA, Emiko SATO, Ayako EDAHIRO, Takeo SUGA, and Takao SUZUKI (Japan) : 「A SURVEY OF THE FACTOR ABOUT ORAL HYGIENE MANAGEMENT IN THE DEPENDENT ELDERLY ~ FINDINGS ON INVENTORY SURVEY IN SPECIFIC REGION」 The20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics June 25 2013, Seoul , Korea
- 8) Yutaka WATANABE, Shiho MORISHITA, Emiko SATO, Hirohiko HIRANO, Ayako EDAHIRO, Haruka TOHARA, Yuki OHARA, and Takao SUZUKI (Japan) : 「RELATIONSHIP BETWEEN FUNCTIONAL DEFICT OF OLFACTORY AND FEEDING OF ELDERLY PEOPLE WITH DEMENTIA – ESPECIALLY WITH CONCERNS TO ALZHEIMER’S DESEASE?」 The20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics June 25 2013, Seoul , Korea 20th International Association of Gerontology and Geriatrics Best Poster Award
- 9) Edahiro, A., Hirnao, H. and Abe, Y. Changes of the eating independency in elderly patients with dementia in long-term progress – Comparison of AD and VaD by the follow-up survey during six year. The 20<sup>th</sup> IAGG World Congress if Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, 2013.6.23-27
- 10) Ohara, Y., Yoshida, N., Kono, Y., Sugimoto, K., Mataki, S., Hirano, H. ,Hiroko

Imura. The effectiveness of oral health educational program in community-dwelling elderly with xerostomia. The 20<sup>th</sup> IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, 2013.6.23-27

- 11) 渡邊 裕、森下志穂、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、田中弥生、池山豊子：「特別養護老人ホームの入所者に対する「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の効果について」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/4 大阪 第 28 回日本老年学会総会 合同選抜ポスターセッション優秀賞
- 12) 菅 武雄、平野浩彦、森戸光彦、阪口英夫、渡邊 裕、大野友久、山田律子、枝広あや子、森下志穂、小原由紀：「終末期高齢者の口を支えるために～多職種アンケート調査から見てきた終末期歯科医療の役割～」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/4 大阪
- 13) 村上正治、平野浩彦、渡邊 裕、小原由紀、枝広あや子、大淵修一、吉田英世、藤原佳典、井原一成、河合 恒、森下志穂、片倉 朗：「高齢者咀嚼機能評価の検討～EWGSOPサルコペニア臨床定義と診断基準を参考に～」 第 28 回日本老年学会総会 2013/6/4 大阪
- 14) 久保山裕子、菊谷 武、植田耕一郎、吉田光由、渡邊 裕、菅 武雄、阪口 英夫、木村年秀、田村文誉、佐藤 保、森戸光彦：「介護保険施設における効果的な口腔機能維持管理のあり方に関する研究調査」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/6 大阪
- 15) 森下志穂、渡邊 裕、平野浩彦、枝広あや子、佐藤絵美子、小原由紀、田中弥生、池山豊子、鈴木隆雄：「通所介護施設における栄養改善および口腔機能向上サービスの効果に関する介入調査」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/5 大阪
- 16) 酒井克彦、平野浩彦、渡邊 裕、菅 武雄、枝広あや子、佐藤絵美子、村上正治、吉田雅康、森下志穂、小原由紀、片倉 朗：「要介護高齢者における摂食・嚥下障害に関連する因子の検討」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/5 大阪
- 17) 枝広あや子、平野浩彦、山田律子、佐藤絵美子、富田かをり、中川量晴、渡邊 裕、小原由紀、大堀嘉子、新谷浩和、細野 純：「認知症高齢者の自立摂食を支援するための介入プログラムの効果検証」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/5 大阪
- 18) 平野浩彦、森戸光彦、阪口英夫、菅 武雄、渡邊 裕、大野友久、山田律子、枝広あや子、森下志穂：「終末期高齢者に対する歯科医療およびマネジメントニーズに関する調査報告」第 28 回日本老年学会総会 2013/6/6 大阪
- 19) 吉田雅康、村上正治、佐藤絵美子、三條祐介、酒井克彦、蔵本千夏、山内智博、渡邊 裕、藤平弘子、唐川英士、富田喜代美、中村智代子、山岸俊太、石山 航、堂前 伸、新井 健、野川 茂、片山正輝、菅 貞郎、片倉 朗：「急性期病院における脳卒中患者の経口摂取の検討」第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 2013/9/23 岡山
- 20) 小島 香、野本恵司、細見 梓、渡邊 裕、尾崎健一、近藤和泉：「高齢肺炎患者における食事形態の帰結の検討」第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

2013/9/23 岡山

- 21) 中村智代子、富田喜代美、唐川英士、新井 健、酒井克彦、三條祐介、佐藤絵美子、吉田雅康、片倉 朗、山内智博、小川真司、渡邊 裕：「食道癌術周術期の嚥下障害に対する当院の取り組み～言語聴覚士の立場から～」第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 2013/9/23 岡山
- 22) 中村智代子、富田喜代美、唐川英士、新井 健、酒井克彦、三條祐介、佐藤絵美子、吉田雅康、片倉 朗、山内智博、佐藤一道、高野信夫、小川真司、渡邊 裕：「口腔癌症例における嚥下障害・構音障害への取り組み～言語聴覚士の立場から～」第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 2013/9/22 岡山
- 23) 森下志穂、渡邊 裕、平野浩彦、枝広あや子、佐藤絵美子、小原由紀、田中弥生、池山豊子：「通所介護施設における口腔機能向上および栄養改善の複合サービスの効果に関する介入調査」日本歯科衛生士学会第 8 回学術大会 2013/9/15 神戸
- 24) 若松俊孝、金子康彦、間瀬広樹、朝倉三恵子、渡邊 裕、佐竹昭介、山岡朗子：高齢者における基礎エネルギー消費量（BEE）の算出方法の違いによる乖離に関する検討（第二報）第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2014/2/27 横浜
- 25) 渡邊 裕 『高齢者の口腔機能低下を病名にできるか』日本老年歯科医学会ワークショップ, 10 月 26・27 日, 東京.
- 26) 渡邊 裕 訪問歯科診療におけるリスクマネジメント.平成 25 年度 歯の健康力推進歯科医師等養成講習会, 日本歯科医師会 10 月 27 日, 山梨.
- 27) 渡邊 裕 介護予防マニュアル 口腔機能向上プログラム 平成 25 年度神奈川県介護予防従事者研修会, 11 月 29 日, 神奈川.
- 28) 渡邊 裕 口腔ケアの疑問解決 学研ナーシングサポート, 2 月 12 日, 東京.
- 29) 渡邊 裕 肺炎とたたかう！実践的口腔ケア. 医学の友社口腔ケアセミナー, 10 月 6 日, 兵庫.
- 30) 渡邊 裕 肺炎とたたかう！実践的口腔ケア. 医学の友社口腔ケアセミナー, 10 月 6 日, 東京.
- 31) 渡邊 裕 訪問歯科診療におけるリスクマネジメント. 在宅歯科診療スキルアップ研修会,兵庫県歯科医師会 12 月 22 日, 兵庫.
- 32) 渡邊 裕 新しい介護予防. 昭和大学歯学部研修会, 2 月 20 日, 東京.
- 33) 渡邊 裕 第 3 回 認知症の人の食支援研究会. 12 月 15 日, 神奈川.
- 34) 渡邊 裕 介護予防口腔機能向上プログラム. 鋸南町介護予防従事者研修会, 2 月 28 日, 千葉.
- 35) 渡邊 裕 いつまでも元気でいるために必要な口の健康とは. 平成 25 年度口腔機能向上推進研修会, 北九州市 2 月 28 日, 福岡.
- 36) 渡邊 裕 少子高齢化時代の歯科に求められるもの.小田原市歯科医師会研修会, 3 月 8 日, 神奈川.

- 37) 田中弥生:在宅訪問栄養食事指導のチャレンジ 第1回全国在宅訪問栄養食事指導研究会 学術学会 シンポジウム 2013
- 38) 田中弥生:介護保険制度の栄養ケア・マネジメントの事例 2013年 社)大韓地域社会栄養学会秋季学術大会 2013, 韓国
- 39) 新田智裕、田中弥生:腰椎疾患周術期の腹直筋委縮と安静時エネルギー消費量について(第1報) ~超音波エコーと間接熱量測定器を用いた検討~ 第48回日本理学療法学術大会 2013
- 40) 平野浩彦 (座長・シンポジスト):シンポジウム「終末期高齢者に対する歯科医療と口腔ケアの役割」第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.5
- 41) 高田靖、古賀ゆかり、中島陽州、枝広あや子、中村全宏、山岸春美、藤田まどか、蛭谷明希、宮本敦子、会沢咲子、平野浩彦:東京都豊島区における歯科訪問診療実態について. 第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 42) 枝広あや子、古賀ゆかり、山岸春美、藤田まどか、宮本敦子、会沢咲子、蛭谷明希、青木一之、小澤政陽、小池拓郎、鈴木章敬、高草木章、高田靖、中島陽州、松山喜昭、柳澤達雄、平野浩彦:認知症高齢者の長期経過における摂食や義歯使用を含むADLの変化~ADとVaDの検討~. 第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 43) 小原由紀、平野浩彦、杉本久美子、吉田直美、河野葉子、佐藤絵美子、吉田英世、大淵修一、俣木志朗:口腔乾燥感を自覚する地域在住高齢者への介入調査研究. 第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 44) 会沢咲子、藤田まどか、山岸春美、宮本敦子、蛭谷明希、高草木章、平野浩彦:東日本大震災被災地における口腔機能向上教室の実施報告. 第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 45) 高草木章、会沢咲子、藤田まどか、平野浩彦、渡邊篤士、志賀博:相馬市応急仮設住宅入居被災者に対する「口腔機能向上プログラム」の効果. 第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 46) 荻田典子、目黒道生、久保克行、中山良子、加藤真由美、澤田弘一、藤原ゆみ、富山祐佳、小林直樹、平野浩彦:認知症患者における高次脳機能の低下と口腔管理の状態の関連性第24回日本老年歯科医学会学術大会, 大阪, 2013.6.4-6
- 47) 小原由紀、平野浩彦、吉田英世、大淵修一、井原一成、藤原佳典、河合恒、小島基永、関口晴子、俣木志朗:地域在住高齢者の主観的口腔健康感に関連する要因の検討. 日本歯科衛生学会第8回学術大会, 兵庫, 2013.9.14-16
- 48) 吉田英世、金憲経、小島成実、吉田祐子、齋藤京子、金美芝、平野浩彦、岩佐一、島田裕之、鈴木隆雄. 地域在住高齢者の基礎的運動能力からみた要介護化の危険因子の検討. 第72回日本公衆衛生学会総会、2013.10.23-25.
- 49) 堀直子、谷口優、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、藤原佳典、干川なつみ、新開省二:地域在宅高齢者における主観的な口腔乾燥と関連する要因. 日本歯科衛生学会第8

回学術大会, 兵庫, 2013.9.14-16

- 50) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、須藤元喜、山城由華吏、鈴木隆雄。後期高齢女性におけるダイナペニックオベシティと老年症候群との関連。第 72 回日本公衆衛生学会総会、2013.10.23-25.
- 51) 小島成実、金憲経、金美芝、吉田英世、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、鈴木隆雄。後期高齢女性におけるサルコペニアと老年症候群・体力指標との関連。第 72 回日本公衆衛生学会総会、2013.10.23-25.
- 52) 天野雄一、蜂須貢、吉田英世、河合恒、平野浩彦、小島基永、藤原佳典、大淵修一、井原一成。地域高齢者における大うつ病性障害の 1 年予後。第 72 回日本公衆衛生学会総会、2013.10.23-25.
- 53) 平野浩彦：特別講演：高齢者の口を考える—超高齢社会の視点から—日本口腔衛生学会北海道口腔保健学会、2013.11.9
- 54) 平野浩彦(座長・シンポジスト)。口腔リハビリテーションはどこまでできているか、第 27 回日本口腔リハビリテーション学会学術大会、2013.11.10
- 55) 平野浩彦：(シンポジスト) 保健・医療・介護の根底をつなぐ口腔ケア、平成 25 年日本口腔衛生学会 口腔衛生関東地方研究会 シンポジウム、2013.12.6
- 56) 平野浩彦：認知症の人の摂食・嚥下障害、北海道大学同窓会研修会、東京、2013.1.27
- 57) 平野浩彦：認知症高齢者への対応 ～認知症を食支援から考える～、東京都歯科医師会在宅歯科医療推進シリーズ研修会、東京、2013.1.31
- 58) 平野浩彦：認知症の食を支える基礎知識、清瀬市役所、清瀬市、2013.2.2
- 59) 平野浩彦：胃瘻造設者の口腔ケア：公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会 胃ろう造設者に対する口腔ケアセミナー、佐久市、2013.2.9
- 60) 平野浩彦：認知症のくちを支える基礎知識、認知症高齢者口腔機能向上研修、高知県庁、四万十市、2013.2.10
- 61) 平野浩彦：認知症のくちを支える基礎知識、認知症高齢者口腔機能向上研修、高知県庁、高知市、2013.2.11
- 62) 平野浩彦：食べる機能を支える、介護予防事業における口腔機能向上研修会、名古屋市役所、名古屋市歯科医師会、2013.2.28
- 63) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、熊本県歯科衛生士会、2013.3.9
- 64) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、介護職スキルアップセミナー、日生福祉学園、2013.3.16
- 65) 平野浩彦：おいしく食べて飲み込んで！、第 11 回口腔介護講演会、市民公開講座、世田谷区歯科医師会、世田谷区役所、2013.3.24
- 66) 平野浩彦：認知症の食支援を考える、佐賀摂食・嚥下リハビリテーション研究会、2013.4.6
- 67) 平野浩彦：要介護高齢者の「口腔ケア」について、介護職スキルアップセミナー、日

生福祉学園、2013.4.13

- 68) 平野浩彦：認知症の食支援を考える、長野県地域医療再生事業回復期リハビリテーション事業研修会、飯田市歯科医師会、2013.4.20
- 69) 平野浩彦：日本の口腔機能向上サービス、韓国健康増進財団来日研修会、2013.5.8
- 70) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、清瀬市役所、清瀬市、2013.5.18
- 71) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、介護職スキルアップセミナー、日生福祉学園、2013.6.16
- 72) 平野浩彦：口腔ケアについて、東京都介護支援専門員更新研修、東京都福祉保健財団、2013.7.8
- 73) 平野浩彦：食行動から認知症ケアを考える、松戸摂食嚥下研修会、2013.7.12
- 74) 平野浩彦：口腔ケアについて、東京都介護支援専門員更新研修、東京都福祉保健財団、2013.7.17
- 75) 平野浩彦：鍛えよう！お口の健康力アップ 美味しく、楽しく、安全に！、区民公開講座、荒川区役所、2013.7.31
- 76) 平野浩彦：超高齢者社会におけるこれからの「食力」、第2回カナミックネットワークユーザー会、2013.8.24
- 77) 平野浩彦：病院・診療所における認知症の人への対応～医療従事者が知っておくべきこと～、茨城県国保診療施設勤務医師看護師・事務長等合同研修会、2013.8.31
- 78) 平野浩彦：認知症の食支援を考える、全国自治体病院協議会・長野県支部栄養部会研修会、2013.9.6
- 79) 平野浩彦：認知症の食支援、佐久星空勉強会、2013.9.6
- 80) 平野浩彦：認知症の食を支える基礎知識、口腔ケアベーシック講習会、鹿行歯科医師会、鹿行地域産業保健センター、2013.9.8
- 81) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、介護職スキルアップセミナー、日生福祉学園、2013.9.21
- 82) 平野浩彦：高齢者へのアプローチ ～高齢者の心身の特性を踏まえて～、東京都歯科医師会在宅歯科医療推進シリーズ研修会、平成25年度東京都8020運動推進特別事業、東京都歯科医師会、2013.9.26
- 83) 平野浩彦：認知症の食を支える基礎知識、武蔵野市役所、2013.10.2
- 84) 平野浩彦：認知症の食支援を考える、地域歯科保健リーダー研修、長崎県歯科衛生士会、2013.10.5
- 85) 平野浩彦：美味しく食べて飲み込んで～認知症の視点から～、市民公開講座、長崎県諫早市お口の連携協議会、2013.10.6
- 86) 平野浩彦：認知症の口を支える基礎知識、歯の健康力推進歯科医師等養成講習会、岩手県歯科医師会、2013.10.12
- 87) 平野浩彦：高齢者の特性と健康状態の把握、日本歯科衛生士会 認定セミナー、日本

- 歯科衛生会、2013.10.14
- 88) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、介護職スキルアップセミナー、日生福祉学園、2013.10.19
- 89) 平野浩彦：口腔ケアについて、東京都介護支援専門員更新研修、東京都福祉保健財団、2013.10.29
- 90) 平野浩彦：認知症の食支援を考える、口腔ケア研修会、北足立歯科医師会、2013.10.31
- 91) 平野浩彦：認知症の口を支える基礎知識、いわて口腔ケア研究会、2013.11.3
- 92) 平野浩彦：要介護高齢者に対して求められる口腔健康管理、看護師・保健師・ケアマネジャー・介護職員集団研修会、東京都心身障害者口腔保健センター、2013.11.10
- 93) 平野浩彦：認知症の口の支援を考える、多摩歯科ネットワーク研修会、2013.11.12
- 94) 平野浩彦：超高齢者社会における“くち”の管理を考える、花王研究所研修会、2013.11.15
- 95) 平野浩彦：おいしく嚥んで、飲み込んで、都民向け公開講座、東京都歯科医師会、2013.11.16
- 96) 平野浩彦：認知症高齢者の「食の自立支援」について、介護職スキルアップセミナー、日生福祉学園、2013.11.23
- 97) 平野浩彦：病院・診療所における認知症の人への対応～医療従事者が知っておくべきこと～、昭和大学歯科 摂食嚥下勉強会、2013.11.28
- 98) 平野浩彦：お口のケアで元気アップ～おいしく食べて、楽しくしゃべろう～、65 歳からの介護予防講演会、市民公開講座、越谷市役所、2013.12.6
- 99) 平野浩彦：認知症の食支援のための基礎知識、第8回福岡摂食・嚥下サポート研究会、福岡摂食・嚥下サポート研究会、2013.12.8
- 100) 平野浩彦：認知症の食支援、板橋区歯科医師会、2013.12.11
- 101) 平野浩彦：認知症の摂食・嚥下障害、昭和大学歯学部研修会、2013.12.19
- 102) 枝広あや子：「認知症の方の嚥下障害への対応～認知症高齢者の自立摂食の維持に向けて～」アルツハイマー病研究会第14回学術シンポジウム、東京都、2013,4,20
- 103) 枝広あや子：「認知症の方への食支援」新宿区医療・保健・福祉の連絡会、東京都、2013,5,17
- 104) 枝広あや子：「認知症の方の摂食・嚥下障害」千葉県作業療法士会認知症専門職研修会、千葉県、2013,9,1
- 105) 枝広あや子：「認知症の方の食を支える支援～摂食・嚥下障害を視野に入れた自立摂食の維持～」山形県南陽市三師会「燦燦会」、山形県、2013,9,25
- 106) 枝広あや子：「多職種力で支援する認知症の方の食事と口腔のサポート」船橋歯科医師会口腔ケア推進事業講演会、千葉県、2013,10,31
- 107) 枝広あや子：「認知症の方の食を支援する」第4回地域医療講演会、埼玉県、2013,12,19
- 108) 枝広あや子：「うちでも出来る！認知症の方のおいしい食事～認知症の方においしく

食事を召し上がって頂くために～」東京歯科大学市川総合病院市病フォーラム第 18 回  
市民公開講演会、千葉県、2014,2,15

- 109) 枝広あや子：「認知症における口腔機能と嚥下機能」第 4 回薬剤師 Web コンgress、  
東京都、2014,2,21
- 110) 枝広あや子：「認知症の方の食支援～口腔ケアと摂食・嚥下障害～」府中地区ケアス  
タッフ・セミナー、広島県、2014,3,14

平成 26 年度

- 1) 渡邊 裕：共催セミナー「周術期口腔機能管理に必要な顎口腔領域の基礎知識」第 68  
回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2014/5/9 東京
- 2) 渡邊 裕：シンポジウム「高齢者の口腔機能低下」第 29 回日本老年学会総会 2014/6/14  
福岡
- 3) 村上正治、平野浩彦、渡邊裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、片倉朗：「日本人地  
域在住高齢者における咀嚼機能の低下がサルコペニアの重度化に及ぼす影響につい  
て」日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/13 福岡
- 4) 鰐原賀子、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、渡邊裕、森下志穂、本橋佳子、菅武雄、  
村上正治、植田耕一郎、菊谷武：「要介護高齢者の口腔湿潤度ならびに口腔内細菌に関  
する実態調査報告」：日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/14 福岡
- 5) 高城大輔、平野浩彦、渡邊裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、村上正治、弘中祥  
司：「地域在住高齢者の咀嚼機能低下と咀嚼困難感の背景因子の検討」日本老年歯科医  
学会第 25 回学術大会 2014/6/13 福岡
- 6) 奥村圭子、徳留裕子、渡邊裕、森下志穂、本橋佳子、平野浩彦、枝広あや子、小原由  
紀、村上正治、鈴木隆雄：「地域在住二次予防高齢者における食欲と栄養障害リスクを  
改善する複合プログラムの検討」日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/13 福  
岡
- 7) 本橋佳子、渡邊裕、木村絵美子、平野浩彦、枝広あや子：「高齢者ブレインバンクでの  
レビー小体型認知症診断症例における摂食嚥下障害の状況について（第一報）」日本老  
年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/13 福岡
- 8) 枝広あや子、平野浩彦、小原由紀、渡邊裕、森下志穂、村上正治、高城大輔：「認知症  
重度化にともなう口腔関連機能の変遷—Functional Assessment Staging(FAST)を基  
準にした検討—」日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/13 福岡
- 9) 高城大輔、平野浩彦、渡邊裕、枝広あや子、小原由紀、森下志穂、大堀嘉子：「アルツ  
ハイマー型認知症高齢者の摂食嚥下機能と栄養状態に関する報告」日本老年歯科医学  
会第 25 回学術大会 2014/6/13 福岡
- 10) 小原由紀、大淵修一、吉田英世、渡邊裕、平野浩彦：「地域在住高齢者における口腔  
乾燥感と唾液分泌量低下に関連する要因の検討—2 年間の横断データから—」日本老年

歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/14 福岡

- 1 1) 桐原浩輔、岩佐康之、森下志穂、渡邊裕：「高齢者における体重変化と口腔機能および全身状態の関係」日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/14 福岡
- 1 2) 森下志穂、平野浩彦、渡邊裕、枝広あや子、小原由紀、村上正治、菊谷武：「地域在住高齢者を対象とした大規模口腔機能実態調査報告」日本老年歯科医学会第 25 回学術大会 2014/6/14 福岡
- 1 3) 小島 香、尾崎健一、野本恵司、伊藤直樹、神谷正樹、細見 梓、渡邊 裕、近藤和泉：「当院回復期病棟における経管栄養患者の帰結の検討」第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2014/9/26 東京
- 1 4) 枝広あや子、平野浩彦、小原由紀、渡邊 裕、森下志穂、高城大輔：「認知症重度化にともなう摂食嚥下機能の変化—Functional Assessment Staging (FAST) を基準に—」第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2014/9/26 東京
- 1 5) 高城大輔、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、渡邊 裕、森下志穂、村上浩史、弘中祥司：「認知症重症度と摂食嚥下機能・栄養状態との関連について—Clinical Dementia Rating (CDR) を基準とした検討—」第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2014/9/26 東京
- 1 6) 木下かほり、朝倉三恵子、小出由美子、間瀬広樹、金子康彦、渡邊 裕、佐竹昭介、山岡朗子：当院の認知症患者における拒食に対する介入例：第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2015/2/11 兵庫
- 1 7) 渡邊裕：介護予防口腔機能向上プログラム、  
鋸南町介護予防従事者研修会、1 月 23 日、千葉。
- 1 8) 渡邊裕：平成 26 年度在宅歯科衛生士研修会 在宅・施設高齢者のための歯科保健指導のならびに病診連携に必要な知識とは 2015/1/25 前橋市
- 1 9) 渡邊 裕：高齢者の心身の特徴・口腔の特徴、低下した口腔機能向上プログラムの実際、本件研究事業における歯科衛生士の役割  
愛知県歯科衛生士会研修会 平成 27 年 2 月 8 日、愛知。
- 2 0) 渡邊 裕：高齢者の心身の特徴・口腔の特徴、低下した口腔機能向上プログラムの実際、本件研究事業における歯科衛生士の役割  
愛知県歯科衛生士会研修会 平成 27 年 3 月 1 日、愛知。
- 2 1) Yoshinori Fujiwara, Hiroyuki Suzuki, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Hideyo Yoshida, Kazushige Ihara, Paulo H. M. Chaves Shuichi Obuchi: One-year change in Montreal Cognitive Assessment performance and related predictors in community-dwelling older men and women, GSA's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, 2014.11.5-9.
- 2 2) Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Hideyo Yoshida, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Cognitive characteristics of

- community-dwelling older people with mild cognitive impairment as assessed by the Japanese version of the Montreal cognitive assessment, GSA's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, 2014.11.5-9.
- 2 3) Masaharu Murakami, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Katsuhiko Sakai, Hunkyung Kim, and Akira Katakura. Relationship between sarcopenia and chewing ability in Japanese community-dwelling elderly. AichiAAOM/EAOM Meeting in conjunction with the 6th World Workshop on Oral (Medicine) April 9 - 12, 2014) Orlando, Florida
- 2 4) Kim H, Kojima N, Kim M, Yoshida H, Saito K, Hirano H, Yoshida Y, Hosoi E, Suzuki T. Prevalence and characteristics of dynapenic obesity in community-dwelling Japanese elderly women. The 2014 Annual Scientific Meeting of the American Geriatrics Society. 2014.5.15-17 Orlando, USA
- 2 5) Hunkyung Kim, Xiuying Hu, Narumi Kojima, Miji Kim, Hirohiko Hirano, Yuko Yoshida, Erika Hosoi, Hideyo Yoshida. Characteristics of sarcopenia in relation to bone mineral density, chronic medical conditions, and physical function. 2014 HAAC Annual Meeting, Suzhou, China, 2014.8.26-28
- 2 6) Kim H, Kojima N, Kim M, Yoshida H, Saito K, Hirano H, Yoshida Y, Hosoi E, Suzuki T. Prevalence and characteristics of dynapenic obesity in community-dwelling Japanese elderly women. The 2014 Annual Scientific Meeting of the American Geriatrics Society. 2014.5.15-17.
- 2 7) 平野浩彦、超高齢社会における高齢者歯科-口腔の管理を中心に、日本補綴学会合同シンポジウム、2014.1.26.
- 2 8) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田祐子、平野浩彦、吉田英世。地域在住高齢者における要介護状態と関連する要因の検討。第19回板橋区医師会医学会。2014.9.13-14.
- 2 9) 大淵修一、藤原佳典、河合恒、吉田英世、小島基永、平野浩彦、石崎達郎、荒木厚、小山照幸、杉江正光、田中雅嗣。都市高齢者の不安に影響を与える要因 社会参加と交流。理学療法学会大会、横浜、2014.5.30-6.1.
- 3 0) 河合恒、大淵修一、光武誠吾、吉田英世、平野浩彦、小島基永、藤原佳典、井原一成。大腿前面筋エコー強度と1年後の運動器リスク出現との関係。理学療法学会大会、横浜、2014.5.30-6.1.
- 3 1) 藤原佳典、鈴木宏幸、河合恒、深谷太郎、安永正史、平野浩彦、吉田英世、小島基永、井原一成、大淵修一。認知機能低下が高齢者のソーシャルキャピタル劣化に及ぼす影響。第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 3 2) 平野浩彦、渡邊裕、小原由紀、枝広あや子、藤原佳典、河合恒、吉田英世、井原一成、大淵修一、金憲経。8020 運動達成後の高齢者咀嚼機能低下のリスク因子としてサルコペニアの可能性。第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.

- 33) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、平野浩彦、山城由華吏、鈴木隆雄. 都市部在住後期高齢者におけるダイナペニクオベシティの有症率とその特徴について. 第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 34) 小島成実、金美芝、吉田英世、平野浩彦、大淵修一、島田裕之、鈴木隆雄、金憲経. 後期高齢期における膝伸展力の変化に関連する生活習慣の解明. 第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 35) 枝広あや子、古賀ゆかり、山岸春美、藤田まどか、宮本敦子、会沢咲子、蛭谷明希、青木一之、小澤政陽、小池拓郎、鈴木章敬、高草木章、高田靖、中島陽州、松山喜昭、柳澤達雄、平野浩彦. 要介護高齢者における精神症状と摂食の関係. 第25回日本老年歯科医学会学術大会、福岡、2014.6.13-14
- 36) 平野浩彦: 認知症高齢者の口を支える視点, シンポジウム: 超高齢社会における歯科診療を考える, 第298回東京歯科大学学会, 東京、2014.10. 19
- 37) 平野浩彦, 村上浩史, 渡邊裕, 高城大輔, 枝広あや子, 弘中祥司: 要介護高齢者における嚥下機能障害の背景因子に関する検討, 第1回フレイル・サルコペニア研究会、東京、2014.10. 19
- 38) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田祐子、平野浩彦、吉田英世. 地域在住高齢者における要介護状態と関連する要因の検討. 第19回板橋区医師会医学会. 2014.9.13-14.
- 39) 平野浩彦: シンポジウム「今日からできる認知症の予防」、口から見える認知症、第19回板橋区医師会医学会. 2014.9.13-14.
- 40) 大淵修一、藤原佳典、河合恒、吉田英世、小島基永、平野浩彦、石崎達郎、荒木厚、小山照幸、杉江正光、田中雅嗣. 都市高齢者の不安に影響を与える要因 社会参加と交流. 理学療法学術大会、横浜、2014.5.30-6.1.
- 41) 河合恒、大淵修一、光武誠吾、吉田英世、平野浩彦、小島基永、藤原佳典、井原一成. 大腿前面筋エコー強度と1年後の運動器リスク出現との関係. 理学療法学術大会、横浜、2014.5.30-6.1.
- 42) 藤原佳典、鈴木宏幸、河合恒、深谷太郎、安永正史、平野浩彦、吉田英世、小島基永、井原一成、大淵修一. 認知機能低下が高齢者のソーシャルキャピタル劣化に及ぼす影響. 第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 43) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、平野浩彦、山城由華吏、鈴木隆雄. 都市部在住後期高齢者におけるダイナペニクオベシティの有症率とその特徴について. 第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 44) 小島成実、金美芝、吉田英世、平野浩彦、大淵修一、島田裕之、鈴木隆雄、金憲経. 後期高齢期における膝伸展力の変化に関連する生活習慣の解明. 第36回日本老年医学会学術集会、福岡、2014.6.12-14.
- 45) 鈴川芽久美、吉田英世、平野浩彦、金憲経、吉田祐子、小島成美、金美芝、鈴木隆雄、地域在住の後期高齢者における外出頻度減少に関連する要因. 第9回本応用老年学

会大会、東京、2014.10.26

- 46) 吉田英世、金憲経、吉田祐子、小島成美、金美芝、清水容子、平野浩彦、鈴木隆雄. 地域在住高齢者における骨粗鬆症（低骨量）が動脈硬化性疾患の発症に及ぼす影響. 第16回日本骨粗鬆症学会，東京，「2014.10.23-25.
- 47) 吉田英世、井原一成、島田裕之、吉田祐子、小島成美、金美芝、平野浩彦、金憲経、長谷川千絵、飯田浩毅、天野雄一、端詰勝敬、蜂須貢. 地域高齢者の脳神経由来栄養因子の血清濃度はうつ病発症後低下する. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 48) 金憲経、小島成美、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄. 地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証ーその1 血液成分. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 49) 小島成美、金憲経、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄. 地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証ーその2 体力. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 50) 金美芝、金憲経、小島成美、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄. 地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証ーその3 身体組成. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 51) 宮永真澄、山城由華吏、金憲経、小島成美、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、. 地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証ーその4 歩行機能. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 52) 山城由華吏、宮永真澄、金憲経、小島成美、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、. 地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証ーその5 日常生活. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 53) 染川慎司、三根智幸、小野郁、林直樹、大淵修一、吉田英世、河合恒、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、金憲経. 地域高齢者における虚弱と味・匂いとの関連についての解析. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 54) 成田美紀、吉田英世、大淵修一、河合恒、藤原佳典、平野浩彦、小島基永、井原一成、金憲経、森田明美、新開省二. 高齢者における食事摂取多様性と食品および栄養素摂取との関連. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.
- 55) 村山幸子、村山陽、竹内留美、高橋知也、鈴木宏幸、小林江里香、河合恒、平野浩彦、吉田英世、井原一成、大淵修一、藤原佳典. 地域の世代間交流における親世代の mediator 機能：祖父母世代の語りを通じて. 第73回日本公衆衛生学会総会，宇都宮，2014.11.5-7.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

本研究結果の一部は第 113 回介護給付費分科会（H26. 11. 6）資料に採用され、介護保健施設等入所者の口腔・栄養管理の経口維持加算等の見直しが行われた。